

昭和 46 年 5 月 1 日 (土)

皆様こんにちは。またまた来ました。お世話になります。今回は連休を利用して、火打山のテッペンから滑ります。総勢 8 名 (L. 竹村、SL 村松、吉田、小口、高木、山ノ井、榎本、高橋)。それに OB の井上さん (3 期) と、同じ職場の村上さん。

昨日は夜 6 時に上野に集合して、のんびりと、いつもの鈍行に乗りました。朝は少し雨が降っていたようでしたが、今は霧です。山小屋は雪が溶け、不格好に大きく立っていました。

3 年 13 期 竹村昇

また・また、今日は、懐かしい山小屋、雪が消えてしまったので、しばらく呆然と佇んでしまいました。雪解けの水が音を立てて流れています。フキノトウや名も知らぬ花が流れの傍らに顔を出しています。明日は、一年生も来るそうです。この、私達のふるさと、なえな小屋を大事に育ててください。この前は何となくザワザワして落ち着きませんでしたので、今回はノンビリと過ごしたいと思います。

?

またまた今日は、懐かしい山小屋。舞い戻ってきた。霧が深く立ちこめて、快い静寂です。今年からは、この山小屋も建設段階を一応終え、運営発展段階に入ると思う。山小屋料金の徴収、冬への準備、修繕、が今年目標です。山小屋万歳！！

杉野沢から久しぶりに重い荷物を持って上ってきました。ユックリユックリ歩いていたら、まず水芭蕉の花が目飛び込んできました。そしてその近くにショウジョウバカマの花がかわいらしく咲いていました。雪がやっと溶けた道には、スマレの花がちょこちょこっとありました。ゲレンデは霧の中、歩きにくくて嫌いよ。牧場に散歩に行きました。池の峯を越えたら、霧が無くなって快晴。三田原も焼も戸隠 (乙妻高妻) も黒姫も見えました。雪はいっぱい。

OB3 期 井上肇

昭和 46 年 5 月 2 日 (日)

火打にスキーに行く。テン場は高谷池。5 月 4 日に帰る予定。竹村他 7 名 (SL 村松、吉田、小口、高木、山ノ井、榎本、高橋)

3 年 13 期 竹村昇

大谷ヒュッテ経由で妙高に向け出発。調子が良ければ黒沢を回って、5 時頃戻ってくる予定、井上他 1 名 (村上氏)。

無事帰還。まずはゲレンデを上る。去年に較べはるかに雪が少ない。昨日滑りに行った連中は、これでは滑るのに苦労したろう。林道をカナメに向けて快適なコースでした。カナメを越えたら大変、沢まで出来上がっているはずの林道に岩が崩れ落ち、更には雪まで残っている。トラバースの途中、一歩滑ったらハイオサラバ、もう二度と通りたくない。大谷ヒュッテを過ぎたら、好きなルートをとって尾根に取り付く。新雪がついていて心地よい。ガレ場に近づいて驚いた。ガレ場へのトレースが付いていない。トラバースしようかと思ったがトレースを辿ってまっすぐ上る。岩を取っついて、雪と別れたのはよかったが、岩にまともな道がついてない。ともかく、ピッケルは背中に回して、両手両足で登る。やっと頂上に着きました。そうしたら、思いがけなく雪がぱらつく。にわか雪ですぐ止んでくれて、また視界が広がった。火打、焼山すぐそこ。白馬の方もかすかに見えて、戸隠連山、黒姫、飯縄もよく見えて、見下ろせば野尻湖、そして残雪の白と雑木林の黒との間に赤い三角尾根がありました。この小屋も妙高の頂上から見下ろすと格別。尻制動をして、長助池に降りました。そこから大倉乗越までは胸突き八丁、雪の直登です。あとは黒沢池から笹ヶ峰に下って、10 時間半かかって戻ってきました。お腹が空いたワー。

OB3 期 井上肇

昭和 46 年 5 月 3 日 (月)

高谷池から火打を目指す。7 時までには帰る予定。井上他 1 名 (村上氏)

予定よりかなり早く帰還。その理由

- 1) 笹ヶ峰まで時速 6 km で歩けたこと。
- 2) 黒沢からの登りが、西面は凍っていたが歩きやすいトレースが付いていたこと。おかげで 4 時間で高谷池に到着。
- 3) 竹村 L 以下 8 名はまだテントの中だったけれども、すぐに彼等がスキーを担いで火打に出掛けたスキに、テントの中で昼食。ともかく予定コースタイムより 1 時間短縮して、火打のテッペンに立ちました。高谷池にテンパッタ連中は、火打の頂上からスキーで下っていきました。黒沢小屋にヘリコプターで上がった連中が大勢やって来て、火打の頂上からカッコイイスキーを披露してくれて、ワンゲル連中はガックリ。でも、ともかく下っていきました。広いスロープを使って大きく下れば良かったと言う話に、とてもそんな余裕は無かった、という返事。

OB3 期 井上肇

遅蒔きながら一部付け加えたい由。

5 月 1 日の混雑を予想し、出発を 24 時間遅らせた、

悠々と座席を確保して、そしてYWV山小屋に着いたのが午前9時。途中ゲレンデを直登してきたが、10m先がボンヤリの状態(ガスが濃かったノダ)、山小屋に到着するとすぐ目に付いたのが野田さんの、台所仕事のカッコウ、よくやっていました。(それとも、デモンストラクションか、との声もチラホラ)。昼飯を食わせて貰って、第3ゲレンデの先までハイキング、残雪は我々を優しく招いてくれた。1年・田中・三島・三木・木下・筒井(女)、中島、日野、小沢・宇佐川。

昭和46年5月4日(火)

低気圧の接近にもめげず、高谷池より果敢にも我等8名、小屋に向かう。昨日は快晴で、火打の斜面をスキーで転がった。日本アルペンスキーの奴等のスキー技術に圧倒されながらも傷ひとつしなかったのは奇跡かも。今日は午前2時頃から雨が降り始め、出発時には相当の風も加わって、少し不安になる。しかし、一年生に会いたくて、下ってきた。富士見平迄は雨風強く、森林帯に入ると風が無くなり一安心。十二曲では、俺を除く全員が転び、下まで一気に滑った。黒沢までは去年の夏とコースタイムは同じだった。黒沢からはギャップにもめげず、スキーをする。雨は依然強し。京大ヒュッテからは全員バラバラで雨中行軍、フテクサレアルキ、イヤイヤアルキ、ガックリアルキ、いろいろあったけど、全員無事、小屋に帰還。AM10:00 小屋はやはり俺達を待っていてくれた。

3年13期 竹村昇

小屋に戻ってきました。8人全員無事でございます。今、小屋の中ではストーブの周りに数名、ナポレオンに興じて居る人数名、将棋をしている人数名、本を読んでいる人も居ます。私はいつも、小屋に来るとき、この山小屋ノートにいろいろなことを書きたくて仕方ありません。しかし、いつもその余裕が無く、(何故なら様々の用事があって、一年生はそれに追われてしまうのです。それから落ち着く場所も無いのです)。今回は全員行きたい人で隊を組み、それぞれが各自の特性を発揮して、自主的に行動(仕事)をしたので、その点では楽な山行でした。私は女性一人なので、いろいろ苦労しましたが、むくつけきオノコどもが、いろいろ神経を使って下さって、どうにか小屋に戻ってきました。(ありがとうございました)本当にありがとう。昨日のテントの中で、皆で話をしましたが、現在の私には、クラブの中だけに限定しても、様々な疑問、あるいは矛盾を抱えています。クラブの外にもあります。ワンダーフォーゲル、そして、そのサークルとは、私は一体、そこで何をしようとしているのでしょうか。或いは、何を求めているのでしょうか。いろいろの人と話したり、自分に尋ねたりしますが、明確なものが

掴めずにいます。また、たとえ或る考え(?)を持ったにしても、それを、サークルの中に於いて、ワングルの行動に置き換える為に、どのようなことをするのか。昨日は、上級生から昔のサークルの事を少し聞きました。当然のことですが現在と違います。問題を非常に狭くして考えると、いいえ、今一番問題になっている事は、サークルをやる気のない人が、サークルに居ることではないでしょうか。こんな風に言うと誤解が生じるかな。現在、ワングルの行動として山行があります。一体何故山に行くのでしょうか。殆ど各メンバー同士に関しても、知り合っていないのに、そんな人が、ワングル部員という名称のもとに、何となく隊を組み、山に行つて、夏合宿のことも、何故、行くのでしょうか。私は1年の時、自分が何故夏合宿に行くのかと聞かれたとき、ワングル部員であるからとしか答えようがありませんでした。それは、自分にも問題がありますが、夏合宿というものが、サークルのワングルの活動の中で、位置づけられていなかった、というサークル内の問題もあるようです。山にはいると、役割の違いがありますが、それ以外のことは、学年などの差を取り除き、フランクに、いろいろの問題に関して、話したいと思います。

そして(前ページと続くのかわかりませんが)人間に対する決めつけを止めて欲しい。そして、他人に対するイメージの付加、それによる表面的接触もやめて欲しい。何だか疲れていて、文章が散漫になってきたので、この辺でやめます。雪のある山、雪は全てを覆ってしまいます。スキーで樹林の中を滑っていると、このままどこまでも降りて行きたくなります。雪の世界が果てしもなく続くような、何も考える必要もない、生活する必要もない、他人のことを考える必要も、自分の事も、社会のことも、自分の存在さえも忘れてしまう。笹ヶ峰からロード、雨の中、懸命に歩いた。大きな声で歌を叫んだり、山小屋に向けて全力を尽くす。見慣れた坂、曲がり、仙人池、妙高、黒姫が目に入る。振り返ると火打の山々が霧に隠れている。殆ど何も見えず、何処に行くのかも忘れて、ただただ歩いた。明日は東京に帰る。一体そこでどんな生活が始まるのだろうか。何処まで行つても、この低迷から抜け出すことはないのだろうか。どうすれば良いのか、・・・私は寂しがりやなのか、人間との結びつき、心のふれあいを求めてしまう。深いところで。

2年14期 山/井とし子

昭和46年5月5日(水)

ガスがかかって視界10m。小雨交じり、全くついていない、昨日と違い、今日といい。心配なのは、悪天率が50%を越えること。六時に全員起床。食事の後、

後かたづけをしてから、全員下山。また来るでヨー。

3年13期 竹村昇

昭和46年6月15日(月)

9時 小屋に着く。昨日着いた奴等は、まだ寝ていた
ので叩き起こす。昨日の11時頃入った とのこと
である。早速 朝食のラーメンを食い、続いて、古い豆、
紅茶、とにかく12時まで食い通しである(特に 小
口、下宿している奴って、ヤダネー)。これから先は、
後で書く。

昭和46年6月16日(火)

霧夜の品定め→星夜の品定め→

< 以下、約6ページの個人評、割愛 >

いつでもせわしくやって来て、せわしく帰って行く。
時間が欲しい、時間が…。昨日小口たちが小屋に行っ
たと聞いて、バイトを早く済まし、急いでパッキング
し、夜行に乗って来た。何で来たのだろう。この頃
俺、妙に怒りっぽくなって、いつでもイライラしてい
る。原因は何か分からないけど、小屋に来れば何と
かなるような気がした。山小屋、俺の心の故郷、俺の
全てを尽くすべきもの、そんな気がする。雪も消えて、
新緑の木々、山々の間に見えるわずかばかりの残雪、
知らず知らずのうちに、心は和んでくる。俺って余裕
が無いんだナ。もっともっと大きな人間、そんなも
のを目的にしなければいけない。反省が足りないんだ
ヨ。ともかく、小屋に来て良かった。いつでも俺を待
っててくれるんだ。好きなんだナ。また帰って一生
懸命やろう。ところで、林道より小屋への道は、山
梨大学が買ったそうである。これで、小屋への道は、
林道より、サレジオか山梨大学の土地を、通らねばな
らなくなった。世の中って うまくいかないナ。

私って、何で、何の為に来たのだろう。誰かが山小
屋行くと言った時、私が行くと答えたのはどうして？
全然、自分でも全くわからない。でも、来てみたら、
緑はきれいし、星は今にも落ちてきそうなほど(流れ
星を3つも見つけてしまった)、そして山小屋の中の雰
囲気、部室と違って、何かすぐ入り込めそうなのだナ
。今日は合宿でもないし、PWでもない。ぶらりと
来てしまって、こんな感覚 いいナ。今 すごく眠
れない、私も調子に乗りすぎたかな。ちょっとこの頃
おかしいのかな？

今年前2時、落ち着きすぎて、達観して、悟りきつ

てしまったような俺、物事を全て側面から見て、現実
というものを直視していない感じ。(どうでもいいけ
ど、腹へったー) 悲しいほど自由で、悲しいほど や
りたいことが無くて、悲しいほど孤独な俺。山小屋に
は悪いけど、こんな人間が多くここへ来るんじゃない
かな。

4年12期 山下久男

全ての努力が報いられずここに居る。俺は努力はし
たつもりだ。少なくとも 考え得る限りは。しかし今
の俺の心の中には梅雨空のようにドンヨリした 湿っ
ぽさは無い。むしろ、秋の空のように澄んでいる。こ
の小屋に来たのも、疵を舐めに来たのでもないし、横
浜から逃げ出して来たわけでもない。

4年12期 山下久男

俺は、自分の心に素直に生きたい生きたいと思い、
諦めはしなかった。今でもその気持ちは変わらない。
しかし 何かわからない、理解できない力に屈してし
まったのだ。俺は弱体にも、その力をはねのける事は
できなかった。

4年12期 山下久男

新しき発見 笹ヶ峰への道で、霧の割れ目から
ちらっと覗いた黒姫山が、実に高かった。ズルイゾ と
声をかけたくなった。

4年12期 山下久男

昭和46年6月17日(水)

「俺のシュラフ、小屋に置いておくから、持って帰る
な！ 7月13日、取りにくる」

3年13期 竹村昇

岩船、竹村、3時にイジケテ小屋より下山。

大きな人間 いいナア、あの真っ青な空のような大き
な心を持ちたい。山の頂上で雪に向かって怒鳴った、
なんてちっぽけな人間なんだろう！！自分で嫌いなん
だ、いやなんだ、でもやっぱり これだけの自分でし
かないんだ。私って もういやなんだ。何しろいやな
んだ！！

<今回は山小屋にはいつからずっとこのノートに
向かう気がしない。ときにはいいですよ。でも 山
小屋には居るんです。

2年14期 小口雄平

続きー自分がわからない、振り回されているの

か。何かを考えたくて、今の私の世界から離れたくて、来たのかもしれない。何か？ でも結局 何も だった、いや何かあったのかもしれない。やっぱり来てよかった、本当に来て良かった。みんな来て欲しい 必ず、一度5、6人の少人数で来るのがいいナア。何かを感じたと思う。何かを考えようとしなくても何かを感じるし、何かを得られる。星も見れた 雲海も見えた、それから・・・、無理してでも来て欲しいナア。みんな自分で それでいて みんなって感じ。山小屋ってそんなところだネ。私は山小屋キチガイになりそうダゾ。 アキ

静か！ひま！ いや、ひまじゃない。やっぱり。

1年15期 谷島章予

昭和46年6月18日(木)

パッキングも終わった。あとは 掃除と出るだけ。ずーっと居たい。いやだヨー 戻りたくないヨー。帰りたくないヨー。何となく落ち着けて、自分で素直になって(図図しくなるのかナア)、言いたいこと言って、やりたいことやって、食べて、寝て。人間の本来のありのままの姿で居れる。みんないい人達、みんなすばらしいんだ。山小屋バンザイ！！ アキ

12時35分 出発！さようなら。山下さん 煙草が無くなったので 発狂気味！！ もっと居たいけれど、尾瀬に行かなければならないから帰る、残念だナ。さようなら、また今度、是非来よー。竹村さん、シュラフありがとう、だけども異様な匂いがしました。—— アキより ——

1年15期 谷島章予

昭和46年7月12日(日)

- 2259 で、オレ、加納、筒井は上野を出発した。長野でソバを食い、善光寺でいたずらをしてから、小屋にやって来たのだ。

3年13期 竹村昇

- 山下さんの壊した鍵を取り除き、新しい鍵を取り付けようと思ったけど、面倒くさいので寝てしまった。2時頃、勝俣一行10人(部外者)がガヤガヤ入って来て起こされた。夕食までの間散歩に出掛け、アザミなど摘んで帰ってきたら、夕食が出来ていた。気の利くらしい(?) 女子供ダス。
- これで 俺が小屋に来たのは、7回目。よく来たものだ。この間はストを利用して、わずかばかりの時間をせわしなく来たが、今回はゆっくり出来る(2階で騒いでいる奴がいるけど)。やっと夏休みになったからネ。ともかく やりたい事をやるサ。

3年13期NT竹村昇

昭和46年7月13日(月)

今、夜中の1時前。それなのに2階でミシミシ、ミシミシ床が鳴っているし(2階の人が暴れてるから)、ラジオはガーガー。”うるさい”って怒鳴ろうかと思ったら、急にラジオが小さくなった。やっと寝てくれるらしい。うれしいな、うれしいな、やっと、元の山小屋に戻るから。でも、なんだって言うのかしら、いくら宿泊料払うからって言ったって、人の迷惑を考えないなんて…考え出すと無性に腹が立つてくる。またまた、ミシミシやりだした。うるさい！うるさい！！いい加減にして！もうもう絶対あんな人たちなんか泊めたくない、頼んだって、もう絶対泊めてやるもんか！山小屋を造っている木、一本一本に不純な空気が染み込んでいくようで、ほんとにほんとに、腹が立つヨー、悲しいヨー、それからネムイヨー。ねむいヨー、ネムイヨー、でも眠れない、うるさいなー！ラジオメ！山小屋が大好きな私に、ひどすぎる仕打ちです これは。山小屋に来たくてうずうずしていたのです。やまごやにやって来てわくわくしていたのです。それなのに、ああそれなのに それなのに。昨日の夜もうさかったけど、疲れていたのか、すぐ寝てしまった。今晚だって、もう一寸で寝付くところだったのに、急に顔の上に何かに乗ったので、飛び起きてしまったのです。何か虫かもしれないし、二階から何か落としたのかもしれない。何でもいや、もう 早く寝たい。明日になれば、明日になれば、全ては解決しちゃうのです。早くあしたになーれ。早くねむりたいねむりたいねむりたいねむりたい・・・早くあしたになーれ なーれ …

1年15期 筒井須奈子

昭和46年7月14日(火)

勝俣一行10名、10:30のバスで下山。送って行って握手をしたら、寂しくなってしまった。うるさくても、二晩も居ると、旧友のような気がしてくるから不思議デス。別れた後のけだるさ。張りつめていた糸が急に切れた、そんな形容がピッタリと思う。しばらく五八木で寝てしまった。

3年13期NT竹村昇

今は朝です、6:00です。小屋はとっても静かです。静かでさわやかなのです。みんな未だ寝ているので、のんびり朝の気分には浸っているのは私だけ。私だけの山小屋！(今は)。鳥が鳴いています。今日も天気は良さそう、昨日の騒ぎはウソのように シーーンとしていて… 現在9:15。もうすぐ10人の部外者が帰ります。今、横に みんな居るけど…私は、心静かに

9:30の来るのを ひたすら待っているのです！！

1年15期 筒井須奈子

光より速いものは無いのかなんとか。でも俺は信じないのだ。何故って、よく分からないけど、昨日の夜、そんな夢を見たのです。ほんの一瞬の出来事、束の間の事、ピカッと私の中を何かは通り過ぎて行ったのです。甘い恋の味だか、恐ろしい悪魔の声だか、今はよく憶えていないのです。ともかく何か速いものが…。今は朦朧としています。虚しさと無力感だけが残っているのです。この私をどうしてくれるのだ。これから先、俺は、ほんの一瞬の出来事を突き止める為に全力を注ぐかもしれない。いったい、あの時のアレは何だったのか。今日の妙高は1日中ガスっていた。空の青さも、雲の白さも、木々の緑や花々の色もみんな灰色に変えられて、この山小屋に俺は居る。あこがれの山小屋、それが一体何なのだ。俺は俺、バッカヤロー。good night. しかし世の中すべて偶然の組み合わせとか……。

3年13期 竹村昇

星夜の品定め <約3頁 割愛> 文責 高橋

昭和46年7月15日(水)

今回は初めてトラックで山小屋へ入った。ブレーキがあまり効かず、よくもまあ無事に着いたものである。運び込む物がトラックいっぱいあった。昨日は皆で、苗名の滝、ニジマス釣りに行った。苗名の滝は立派であった。約30m-40mはある。回りの絶壁が壮観。ニジマスは全部で3匹釣った。釣った人、筒井、加納、山川、一本の竿で6人、順番に釣ったのに、野郎をさておいて、一番始めに筒井サンが釣ってしまった。夕飯はマスのぶつ切りに、キャベツとナスを入れ、煮て、醤油とレモンの絞り汁につけて食べた。酒も利いて楽しかった。本日は、皆さん、黒姫を目指し、早朝から出掛けて行った。一人残ったのはオレ。今何となくここに居る。半分寝ているのか、半分死んでいるのか、わからない。

OB11期 高橋秀雄

グルグル 頭の中が回っている。あたりまえサ。地球が廻っているもの。秒速30kmで太陽の回りを廻り、己も廻っている。だから、オレも廻っているのだ。光は速い。しかし星は何年、何億年彼方から光っている。きっと光が星に 空間に屈しているのだろう。だからオレも屈するサ。星は美しさの象徴。いつもキラキラ輝いている。ボンヤリ霞む天の川。流れ落ちるから美しい 流れ星。己の位置を10秒もじっとしていない

のに、オレには永遠にソコに在って動かないように見える。星は 星の数だけ在り、数えるのも面倒だ。星を写真に撮ると、白赤青黄緑 みんな揃っているのに、目で見るとみんな白く輝いている。瞬いている。きっとオレの目が潤んでいるからだな。雪が無くなり、汚くなっていた小屋の廻りも、今は緑に覆われて、その美しさを取り戻した。緑も良いものだ。山の装いも緑になった。きっと、一番良いものなんか無いんだな。白い山、白い小屋が良いなと思った俺なのに。きっと秋には、赤や黄に変わった山を見て感動するに違いない。星が今夜も輝き、山小屋に夜が訪れた。ロウソク、ランプの光は暗く、何もかもが見えない。

OB11期 タカハシ高橋秀雄

昭和46年7月16日(木)

今日は晴れていた。しかし今は、雷を伴った雨がジャンジャカ降っている。その雨の中をトラックで、広瀬、加納、筒井が帰って行った。俺達は雨の中に残った。小1時間も経った今は、夏の太陽が出、雲が踊り、鳥が歌う。又少し経った今、雨がパラパラ。またまた、陽がサンサン、風がソヨソヨ。タカハシ どうしてだか知らないが、赤のボールペンで書く気になった。世間では赤で書く奴を気遣いととか、でも関係無い (あるかも?)。ボンヤリしているうちに忽ち時は過ぎ、今日は5日目、小屋から下山する日だ。朝、1年生3人が帰って、今はオレと山川さん、高橋サン、3人が思い思いの事をしている。高橋さんはプリンを作るとか、山川さんはグッスリ寝ている。1年生が帰ったときは雷雨が凄かったが、今はサンサンと太陽が眩しい。真夏の空だ。ところで、小生解らないことがあるのだが、朝降る雷雨を何と言うのだろうか、夕方に降るそれを「夕立」と言うらしいが、朝は「朝立ち」だろうか。はてな?ともかく何か忙しく5日間を過ごしたが、まだ何もしていない様な気がする。でも、何をしたら良いのかと言われると何も解らない。そして変に充実感はあるのだ。時間に追われる事無く、心のママに過ごしたからだろうか。

今夜は 青のボールペンで書きたくなった。今回は、筒井、加納、広瀬、高橋、山川さん、本当にご苦労さんでした。一度は諦めかけたトラックでの資材、装備運び込みも、皆の協力であまくいったもんね。食事を作ってくれた筒井、細々とした雑用をよくやってくれた加納、トラックを運転してくれた広瀬、高橋、山川さん。皆本当に本当にご苦労さん。それから、青木、カーテンご苦労さん。机もありがとう。差入れのカステラ旨かったよ、きれいでかわいい君、好きぞヨ (ちよっと悪乗り)。女の方の狩野。ふとんや食器、ギターありがとう。君もきれいで優しくて好きだヨ (これも

悪乗り)。ともかく皆山小屋を真剣に考えてくれて、オレはうれしくて、うれしくて…

とうとう最後の色の黒になってしまった。これを書く
と俺は、山小屋を去らねばならない。悲しいことだ、
帰らなければならないと言うことは。清々しい空気、
かわいい鳥の歌、白い雲、輝く太陽、緑の木々、堂々
とした赤倉の絶壁、その上にほんの少し顔を出した妙
高、堂々と裾野の長い、すぐ目の黒姫、再び会うの
は八月の初め、それまでのお別れだ。しして、山小屋、
次回もきっと暖かく迎えてくれ、

OB11期 高橋秀雄

小屋の後かたづけも山川氏の分を除いて全て終わって、
あとは、ただ寝転がって、時間の来るのを、鳥の声を
聞きながら待つだけ。

3年13期竹村昇

ヌ。ヌ。ヌ！！ 途中、じゃまが入った。ウト
ウト、ウトウトとしながら書いたので、周りの変化が
実に面白かった。モクモク、沸き上がる積雲。ただいま
11時、山川が妙高目指して出掛けて行った。今、
筒井の作った握り飯を食った。今度は味付けを 手取
り 教えなければ。冷やし中華を竹村が作っている。
俺は生命力が無いのか。ただ、ウトウト、ポリポリ、
ムシャムシャ。腹が減る。雲。池の峯から一気に駆け
下りてくる層雲。三田原の上にモクモクする積雲。
高くたなびかない絹積雲。今は 上には何一つ無い青
空。しかし、またまたやってきた、積雲。あの雲を眺
めて瞑想に耽った。草。雪が溶けると、辺り一面
が草になる。食べられる草、花を付ける草。人の行く
手を妨げる草。どうしてこんなに草があるのか。ブル
ドーザーで整地され、押しつぶされたのに、雪が降っ
て枯れさせたのに、草は又今年も生えた。何のためか。
風にガサガサ、ユラユラ揺れて、ただそこに立ってい
る。大カマベ草を切る。バサッ、バサッ、所詮おまえ
は邪魔なのだ。今、山小屋は寂しく立っている。活
気が無い。きっと、俺なんか居るからだろう。今度
の8月は、きっと活気づくだろう。床を磨き、檜を作
り、草を切り、藪を刈る。そして、山小屋は一段とそ
の姿を良くする。そうあって欲しい。

OB11期 タカハシ高橋秀雄

山川さんへ 鍵は下駄箱の上に置いておきます。食
器を洗って置いたので、乾いたら食器棚に入れておい
て下さい。あとは任せます。

3年13期 竹村昇

今回は寝にきたようなものだ。それでは山小屋よ、又
会う日まで。ああ、そうそう、竹村が作った冷やし中
華、固くて、なかなか食えなかった事を付け加える。

山小屋に入ってビックリ。私が出ていったときと殆ど
変わっていない。山小屋日記をめくる。ナルホド、ナ
ルホド、竹村は私の分を残していつてくれたとのこと。
いつもと違ってこういう時は遠慮深い。だーれも居
ない山小屋。洗濯物を干してから、ボツボツと片づけ
始める。

た。風が強く、雲がどんどん流れていく。何故、こん
な事をしているのかナアーと考える。ふと、自殺した
くなるような雰囲気。用の無くなった者はさっさと消
えるべきかもしれない。OB 諸氏よ！私が今、こうし
て生きていることのメリットとデメリットとは、一体
何なんでしょう？ 少し様子が変わってきてしまいま
した。私は急いで下山しました。 オシマイ

4年12期 山川隆

さっきから胡瓜ばかり食べています。こんなものを残
して置いても、すぐに誰か食べてしまわない限り、腐
ってしまう。山小屋にたった一人で居るというのも
良いものだ。おまけに今日は風が強い。小屋がミシミ
シと揺れる。15日黒姫に登った時、我々5人（竹村、
広瀬、加納、筒井、山川）は、頂上で土地の人に会っ
た。17日は「黒姫祭り」とのこと。それで、この日が
近づく土地の人は黒姫に登るということである。そ
れが毎年の習わしだそう。彼らは頂上で、石の祠（ほ
こら）のようなものに酒と米を供え、お祈りのような
ものをやった。我々もそれにつきあう。鏡池にナベと
おわんが埋めてあって、彼らはこれから、コイコクを
作って食べるそう。我々も是非・・・と誘われたが、
帰りが長いので、ナミダとツバを飲んで断った。コイ
コクが食べたい。山小屋にいるとタンパク質が少な
すぎる。”竹村”というケチな名前の養魚場（高沢の少し
先）で 鯉は1kg 600円。私が今晚食べたもの。

1. 私が昼に食い残したオニギリ1ケ。
2. 小屋に置いてあった、誰が食い残したか判らない
オニギリ1ケ。
(…俺が忘れたオニギリだよ、損した…竹村後記)
3. 胡瓜3本（・・・まだ残っている・・・後記）
4. マツタケのお吸い物（即席ヨ、モチ）。これは、
いつのしか判らない。3袋のうち一つは完全にイ
カれていた。

半年振り山小屋にやって来た。この半年は忙しかっ
た。別にそんなに好くジュールが詰まっていた訳でも
ないが、心に引っかかっていることがあると、来づら
い。何故ならば、来ると私は何もかも忘れて、何もし
ないで時を過ごすから。それだからこそ、この前は来
ただけけれど。今、私以外誰も居ないはずの山小屋
の中で、突然ギターが鳴り始めた。パッと懐電の光を

当てる。カマドウマが弦に止まっていた。
二年生諸君へ。

古い山小屋日記をめくっていたら、去年の夏の分が出てきた。君達は覚えているか。小口、吉田、高木、鈴木、下田、日野、曾根原。君達は、こんなに沢山居た。ところが二年生は竹村一人だった。夜も更けて、小口の演説が始まった。「そもそも安工とは…」に始まり、失恋、恋の話、新宿のことなどイロイロと出てきた。そして竹村が責められる。「竹村さん、大体二年はナンセンスじゃないですか。僕たちはこんなに来ているんですよ。それなのに二年は竹村さん一人しか来っていないじゃないですか。」それまでの経過を考えてみよう。歩荷訓練の事故・そして夏合宿がつぶれ、山小屋周辺で期間を短くして夏合宿を行おうとしたが否決される。一応、反省会で事故の検討が終わってから、山小屋整備を全員で行う、と言うことになる。しかしこれも、先発と本隊とに別れてしまう。あの時、二年生が、夏合宿をやっておかないと来年困るからという提案を蹴っておきながら、多分今、山に行っておかなければ困るからという理由で盛んにチョンボして出掛けた。我々執行部学年は、それを見ていざるを得なかった。彼らがそうすることは、全く理由のない事ではなかった。部活動に魅力を感じないとしたら、それ自体は彼らのせいではない。我々もまた、前の代に対しては同じようなことをしてきた。しかし、他方、それを許さない事情も部活動にはある。一年小口をして、あれほどまでに二年を攻撃させたものは何だったのか。その場に居合わせた者全員が、同じ事を感じていたからこそ、説得力があった。君達はまだ、あの時の一年の素朴な疑問を忘れていないだろうか。常に夏合宿とはつまらないもので、常に二年生とは、そうしたもので、常に一年生とは、おかしいなと思いつつも、一生懸命にやるものなのだろうか。これでいいものなのだろうか。人物評――”来年の夏合宿のことを考えている”これは、あながち外れてはいまい。

4年12期 山川隆

昭和46年7月17日(金)

今朝、目が覚めたのは5時。雨が激しく降っていた。次に目が覚めたのは7時。同じく雨が激しく降っていた。どうやら目が覚めると雨が降っているのではなく、時々雨が降り、その音で目が覚めるようである。昨日も、私が寝ている間は晴れていたようだ。何時だか判らないが、森さんに起こされる。オクサンと一緒にいる。去年はまだカノジョだった。二人でどこかへ散歩に出掛けて行った。今日私は下山する。高谷池へ行ってユキザサを取ってきたかったが、時間がない。今回は4日間ココに居たのだが、何かアツという間に終わってしまった。山小屋というのは実に良いところ

だ。何もしないでボケーツとしているのが一番良い。こうしていても、時間ばかり過ぎていく。もう帰らねば。外にごみを捨てに行き、なたをを見つけて来た。無くなってしまったかと思っていたが、見つかって良かった。今、一時。あと、二時間もすれば、二人が戻ってくるでしょう。それでは私はこれで帰ります。

4年12期 山川隆

昭和46年7月24日(金)

12人、同じ職場の連中が来ました。今年(昨年?)は、やはり同じような人数でしたが、天気が悪く、雨ばかりで、何処にも行けませんでした。今年こそは妙高山頂へ。変わった連中も随分居ます。コッフェルで3度の食事をしている者、10kmも20kmも平気で歩く者、組合の委員長、新婚ホヤホヤも来ました。どうして来たんでしょか。鹿児島出身者、下関、四日市、新潟、鎌倉、三浦半島、横浜、東京。濁った井戸水でも、みんなうまそうに食事をしています。

OB8期 佐木誠夫

昭和46年7月25日(土)

妙高へ登ります。一人いつも遅れてしまいます。文句を言いながら歩いています。二度と妙高には登らないぞ。山頂に着いた頃は晴れてきました。火打、焼山、まだ大分残雪があります。黒沢池、いつもと変わらない姿をしています。雨がざあざあ降りました。学生の団体とぶつかり、混雑待ち合わせ、随分時間がかかりました。ずぶ濡れになり、終バスにも乗り遅れました。ダンプに乗って帰ってきました。笹ヶ峰で買ったビールで、みんな歌っています。西瓜もあります。山の歌、軍歌、枯れすすき、民謡、皆んな歌っています。明日は杉野沢に下るだけです。そろそろ眠くなって来ました。お休みなさい。

OB8期 佐木誠夫

旅人

旅人は何故旅をするのでしょうか。

夢を求めているのだろうか

あのさびしい旅を、何故一人で続けるのでしょうか
親しい人々に会って、常に旅立ちの日を考えている。

すべてをすてて、未知の世界に歩いていきます

旅人はいつまで旅を続けるのでしょうか。

留まることが出来ないのだろうか

あの苦しい旅を何故一人で続けるのでしょうか

生命が続く限り旅を続けています

心惹かれる人を捨てて、未知の世界に歩いていきます

旅人は 何をしているのでしょうか
唯、心の満足を求めているのだろうか
旅で出会った人々の苦しみを知りながら
何もしないで歩いていきます
心のトゲを乗り越えながら

島

九州南方海上に小さな島々が
続いています。
とから列島
ちんもくの島々、沖縄のようにニュースにはなりません。
大海原にそそりたつガジャ島
空から見たその島は、青海原に溶けて、
人を寄せ付けないような顔をしています。
遣唐使船の昔、大和人はこの島を辿りました
奄美航路の飛行機も、この島を辿ります
どんな人々が住んでいるのでしょうか
すばらしい人々でしょう
海洋公害は
その島々にも、その牙をむけています。
静かな世界
人と自然は永遠に生きています

昭和 46 年 7 月 25 日 (八期) 佐木

古い歌を聞きながら感じた事

戦後、長い日時が経つと、多数の人々の心も変わっています。あらゆる面に軍国主義が生き返っています。戦争の苦しみも懐かしい思い出となっています。今こそ一人一人が平和な社会を作る為に努力しなければなりません。

OB8 期 佐木誠夫

昭和 46 年 7 月 30 日 (木)

今からもやしを炒めて、お茶を沸かして、パンを食べ、旨いといい昼飯なのだ。一人で来たから、ハエさんが友達なのだ。小屋にきたからには、何かこれに書くのだ。どかどか鳴いてるうぐいすも、道を通る車の音も、全て俺には縁遠い。木の葉のさやさや、ハエブンブン、みんな俺には縁遠い。のんびりくらすんだよ
1 年 15 期 (うしくぼ) 牛窪肖

ヒマだな。ヒマだよヒマヒマ、はえ叩き欲しいな。早く晩飯食って、早く寝よう。明日は腹減って眠れなくなるまで寝てよ。上で寝ようかな、下で寝ようかな、布団で寝ようかな、シュラフで寝ようかな、俺原稿用紙持ってきたもんね。小説書くもんね、こんなノート字で埋めるの飽きたもんね。でもしつこく書くぞ、ガスってきたもんね、女欲しいもんね、妙高登りたいも

んね、井戸 まだ調べてない、さっき行ったらマムシが居た。俺、へび見ると みんなマムシにするもん。ふと、縁先から外を見ると、霧、風にさよと流れ、地平線の方から晴れてくるようである。チュー公は、再び照り出した陽光に、サングラスかけるかと思いつつ、かけずにゴム草履つつかける。小屋の周りをぐるっと回り、やはりヒマは変わらず。中に入り、誰か来ないかしらん。とはいえ、ヒマだヒマだと思いつつも、時は移り、時計は午後の五時を指している。さて、そろそろ飯にするか。みそ汁と目玉焼きでなもんで良いかと、起きあがり、米をとごうとする。米、とぎ終えて、焚いてはみたが、みんごと失敗、焦げて芯はあり、水を足すこと数度、だが、依然米は生煮え、三島の米、思い出す。一人で泊まるのは何だか怖いのだ。何せ、初めて小屋に来て、勝手も分からず、バス道まで、水汲みに行ったぐらいだから。六時、頂きます、なのだ。けど、一人で夕飯を作るのは、とつてもやな事だ。わびしい。だんだん暗くなって行く様な感じの中で(本当はまだ暗くない)義務感みたいなものを感じて、飯を作る。やだな。やっぱ、人間は一人はだめですよ。六時十五分めし食い終わる。まずかった!!もうやめた。やめたはずなのにしつこく書く。しつこくしつこく書く。とにかく、次にここに来たら、今回のことが思い出となっているわけで、その時は自分も小屋に馴染んだッテ事だろう。今はダメ。ただただ、誰か来ないかなと思うだけ。俺は弱いね。ガラスに露が付いている。冷えてきたんだな。何だか、ここに今居る事が不思議みたいだ。大分暗くなってきて目に悪いかなど思いながら書いています。結局上で寝るのはやめ、下のが何となく人間の匂いがするから。さっきと気分が変わって、今は俺の小屋って気がします。俺一人だもんね。自由に使えるもんね。もう5頁も書いてるよ。ノート勿体ないかな、早く眠くなれ。6時45分やっぱ来て良かったかな。今夜はいろいろ考えてみよう。でも自分なんてみつめられるかな。

1 年 15 期 (うしくぼ) 牛窪肖

昭和 46 年 7 月 31 日 (金)

午前5時20分、今 太陽が、靄と雲がごっちゃになったみたいなものから、しょぼしょぼ赤く姿を現しました。6時50分 なーんにもやる気しない。まだ飯も食べてない。今日はいい天気になりそうで、表で日光浴にいそしむ事にする。

1 年 15 期 (うしくぼ) 牛窪肖

ところが晴れない、どうする?午前中水汲み、疲れてゴロリと横になる。井戸はたやすく見つかって、ちゃんと道がついてるんですね。昨日とは違って変わって、一人つてのはイイもんだねエ。午後ガス出てくる。

蝶々がガラスの所でバタバタやって一所懸命バタバタ
バタ

1年15期 (うしくぼ) 牛窪肖

この紙に書いても良いのかな。どうもさっきからたまにゴロゴロいってるのは、雷様の様です。あんまり有難くはないのです。随分紙を使ったけど、1日中やることないし、どこも行かないからしょうがないと諦めて下さい。まだまだ書くぞ。手術した目が、最初のうちは良かったけど、また悪くなりそうだな。少し悪くなってるな。

1年15期 牛窪肖

昭和 46 年 8 月 1 日(土)

今朝起きてカレンダーをめくりました。明日はみんな来るんですね。一人と 60 人位と、両極端。今度は 4, 5 人で来てみたい。今日は笹ヶ峰まで散歩。今は夕飯を食い終わって、夕焼けを眺めています。さっきまで白かった半欠けの月が、少し顔を赤らめた。そんな時刻です。今日は夕方になってもガスが出ません。明日は駅まで迎えに行こうと思っています。

1 年 15 期 (うしくぼ) 牛窪肖

昭和 46 年 8 月 2 日 (日)

夏合宿にノコノコ着いてきて どういう訳か山小屋まで来てしまった。初めは山小屋に来る気はあまり無かったのだけれど、やっぱり来てみたくなった。雪のない時に来たのは去年の 9 月以来、林道から山小屋への道を歩いてくると、赤い屋根が見えるのが何とも言えない。自分の家へ帰ってきたような気持ち、俺にとっていろいろな思い出がある。今日は、5 年生は一人のみ、4 年が山下一人、従って上級生は 2 人のみ、後は一、二、三年、ごたごたとしている。今回の夏合宿、体調あまり良くなく、苦労した。こんな調子は山に来て初めて。おまけに精神的にも疲労した。明日横浜に帰る予定、けど、もう 2, 3 日ここに居たい気がする。今年の夏は多分もう山小屋には来ないだろう。もう今年で学生生活も終わり、来年からはヒマもあまり無くなるだろう、なんて 考えると悲しくなる。山小屋が出来てから 4 年目になろうとしている。出来たばかりの時の小屋は何にもなく唯広だけで人間の匂いが全く無かったが、いつの間にか人の匂いが染み込んでしまった。その後、竹村が書きたくてたまらないらしく、さっきから待っているから、この辺で終わりにする。

OB11 期 桜井謙一

ps 何と言っても同じクラブに同姓の人間が居るのはやりにくい。今年の 1 年生に、女の子だけれど、俺と同じ名の奴が居る。何か、名前を呼ばれると ハッとしてしまう。する。

OB11 期 桜井謙一

11pm 風がザワザワとうるさい。小屋の中も初めて 50 人近くの人間を飲み込み活気がある。またやって来ました。昨日夏合宿の終結を銀山平で済まし、そのまま全員でやって来ました。小屋を使用するのは確かに少人数の時の方が楽しいと思う。けれど、この小屋をワングルの全員が知って欲しいという願いは強い。くだらないと言って再び帰ってこない奴も居るかもしれない。でも一人でもこの山小屋を好きになってくれれば

それでも良い。とにかくこの小屋は俺達の者なのだ。これ以後今日の出来事を記します。今日は非常に長くいろいろなことがあった。朝は 4 時半に起こされ、合宿最後の質素な朝食を済まし、チャーターしたバスで一路山小屋へ。開通直後のシルバーラインを通り小出へ。ここで他の 4 年と別れた。佐渡へ渡っていった。俺も行く予定だったが、どうしても小屋に来たかった。上越・信越と乗り継ぎし、途中で初めて間近に日本海を見て感激。暑さにうだされ、山の涼しさを懐かしく思う。田口(妙高高原)で買い出しをし、山小屋へ。杉野沢で俺、竹村、宇佐川が降り岡田宅へ。明日からの予定をうち合わせ済まし、3 人で歩き出す。サンダルだったが、ドンドン飛ばした。笹ヶ峰山荘あたりで、宇佐川が見えなくなったが俺と竹村は丁度やって来た車に乗せて貰う。しかし、夕食を済まし、いよいよのんびりしようとする頃になっても、宇佐川が帰ってこない。気楽な気持ちで再び竹村と探しに出掛ける。彼は第 2 リフトの方へ、俺は山荘の方へ、早大小屋の前で、先に探しに行っていた太田と会う。居ないとのこと。この辺から焦りだし、急いで山荘へ駆け込む。しかし、ここでも行方は分からず、おまけに、この付近に最近熊が出没しているとのこと。アーッ!と思ひ足が震え出す。小屋に戻らなければと思うが、怖い、車はあるが運転手が居ないとのこと。仕方なく、度胸を決め、暗い中を飛び出す。本当に、どうにでもなれという気持ちだった。林道を駆け上り妙高登山口で竹村・太田と会いホッとす。3 人で急いで小屋に戻り、全員を小屋に入れ、上級生は対策を考え、とりあえず車をつかまえ、杉野沢に連絡することにする。いざ、出発しようとしたとき、宇佐川が帰ってきた。全身の力が抜けてしまった。岡田さんの所へ戻ったとのこと。その後、明日の予定を考え、一、二年生は Meeting、それも終わって皆シュラフに入ってゴソゴソ話している。俺はよっぽど何かに憑かれているみたいだ。44 年 3 月の八ヶ岳、45 年 3 月の九州、45 年 8 月の丹沢。そして今度、と 4 度目。今は怖さが先行してまだ落ち着いていない状態。まだ熊の危険は去っていないが、とにかく被害が無くて良かった。とにかく、こんな騒動があって、小屋に来る人間は少なくなるのが無いようにあってほしい。疲れましたのでもう寝ます。

4 年 12 期 山下久男記

やっとの事で夏合宿を終え、一族郎党四十七士を引き連れて我等はやって来た。直江津で信越本線に乗ったときは本当に安心した。夏合宿の日光なんて、この妙高と比べたら外国と同じだもんね。ともかく、新井あたりから、我が父「妙高」をずーっと探し続けていたけれど、結局今回も、駅から見えなかった。ここで我が母「火打」、姉ちゃんが「黒姫」で、あとは「焼」その他は弟及び親類ということにしておく。ともかく父

ちゃんには会えなくて、駅を出て、岡田さん宅に寄り、5時半に小屋に着く。途中チョンボして宇佐川を残して、車が来たのが、後の騒ぎになったのだが、このことは充分反省しております。ともかく俺は無事合宿を終え・・・チクショウ赤松のいびきで、せっかく名文を書いてやるかと思っただけなのに書けやしない、ウルセー。いびきやめろ。あ!!やめた。また始めた。いい加減にしろー。小キジも撃ちたくなかった。誰か代わりに行ってきてくれー。…ちょっと行って来る。それから小屋の中のキジ場を使わして貰う。どのみち自分が昨年、臭い思いをして掃除したのだから、堂々と使わして貰う。再び、夏合宿が終わってほっとした。途中で何かあるのではないかと覚悟していたけれど、何も無くて良かった。なかなか俺の考えを徹底出来なかったのは、多少心残りだけれど…。俺の大嫌いなものは、金の話、食物の話、山の事、大好きなものは、女の話、小屋の話、ワングルの話、人間の話、それを分かってくれないのだ。山に入っていないときの皆は嫌いだ。妙によそよそしく、表面的で。でも山に入ったからと言って、何でもかんでも許されて良いと思っている奴も嫌いだ。(ちょっと矛盾してるかな?) もうやめようか、12:20 で頭がぼけている。今回の山小屋は、授業を気にする事もなく、ゆっくりと居られる、それが何より嬉しい。1年生にもっともっと山小屋の事を教えてあげたい、もっともっと。俺の知っているだけ。そして俺しか知らないことも。山小屋と決心して1年間、何となく過ぎてしまったけれど、もう疲れた。あとは、山ノ井にしろ、高木、小口にしろ、もう任す。後は頼むぞー。ともかく山小屋の事だけを考えて、ワングルを続けてくれたら嬉しい。本当にそれだけの価値があると思うよ。しかし、随分いろいろなことをやった積もりが、まだ相当やり残している。結局俺には金が無かったのダー。森さん寄付有り難う御座います。佐木さん、沢山の人を連れてきて有り難う御座います。

3年13期竹村昇

今山小屋に全く金は無いのです。私は有り金をはたいて冬支度をするつもりだったのですが、それでも足りなかったのです。本当に本当に有り難う御座います。おかげでプロパンとガラスは入りますから、また寒くなったら来てください。10期の佐藤智恵子さん、この間はどうもすみませんでした。上高地で待っていたのです、私も。でも会えなかった。あの日は、山小屋と鳳凰三山9日間、山に入って、家に帰ったばかりだったので、どうも眠くて眠くて、5時半頃着いて、妙高と戸隠の地図を見ていたのですが、つつい眠くなったところ迄は憶えているのです。後は時計を見て7時半でびっくりして、これはしまったと思ったのです。本当に本当にごめんなさい。許してくださいね。ゴメンナサイ、ゴメンナサイ。鍵の事は、岡田さんは話を

してありますから横浜に帰ったら電話して下さい。戸塚でもどこにでも取りに行きます。戸隠に抜ける道は1カ所沢をジャブジャブやるところがあり、後は水芭蕉の根を踏んで行けばうまくいきます。少々笹がうるさいかもネ。もう寝ます。眠くて眠くていつも貴方が関係すると眠くなりますね。おやすみなさいませ。谷島の決めてくれたシンボルマークで我が名を知らせます。名づけてイジケヒマワリとの事。

3年13期N. Takemura 竹村昇

昭和46年8月3日(月)

山小屋整備 8:30-仕事-10:00(休み) 10:30-仕事-12:00(昼食、食休み) 13:30-仕事-15:00
・小屋の周りの整頓 ・整地 ・ゴミ穴掘り ・溝掘り ・床のペーパーかけ ・煙突直し ・防腐剤塗り
朝、高橋さんが入る。4,5,6 隊が上の事をやり、1,2,3 隊は、下に風呂に入りに行った。午前中陽射しが強くて参りました。…昼休みは もっと欲しいヨー

3年13期竹村昇

.8/3 山小屋、現役連中多数。

今回の予定、

8/1 戸隠

8/2 笹ヶ峰

8/3 野尻湖

8/4 帰京の家庭サービスの予定であったが、娘、風邪の為ワイフ共々不参加。小生一人にて 8/2-3 と山小屋の見物。外見、開所の頃と変わらず、内部造作かなり増加。人間、ハーフOBの桜井、高橋両君以外、見知るもの皆無。時代が変わった。

OB3期 井田貞司

新しい防腐剤を塗る。草を刈る。取る。穴を掘る。溝を作る。床を磨く。この続きは後で書くとしよう。今は眠たい。

夏合宿、終わった。唯、無事に終わって嬉しいという気持ち。明日からは科の合宿、今、この皆の居る小屋を去りたくない。山小屋、僕のYWV存在の中の大半を占めている。 現点における夏合宿の総括。

まず第1に感じたのは、二年とは一体全体何なのか分からない。中途半端な存在、来年僕たちが夏合宿を行っていいのか、まとまりの無いことが頭の中に浮かぶだけ。ただ一つ嬉しかったのは、僕の今まで行ってきた行動の一部ではあるが、一年生に理解された事、それも最後の銀山平で言われた時嬉しかった。これだけでも僕が夏合宿に参加して良かったと思う点で

ある。数々のことあった、言いたいこともたくさんある、これから一つ一つじっくり考えたい、今はただ疲れた、それだけ。

2年14期 高木展郎

ここへ来る前、家で感じた虚しさを消し去る事が出来ない。今年の夏合宿の留守番本部をやったのだが、その最後の数日間、俺の信じる事ーワングルとか、サークルとかーを書いたのだけど、結局俺は何も言えない。俺の時代はこのワングルで去っていったのだと感じた。ああ！俺はこのワングルで何を夢見たのだろう。俺達の代では出来なかった。それを今、5年OBとして、やっていこうとしていたのかも知れない。しかし、所詮、OBはOB、5年は5年にしか過ぎないのだ。この虚しさ。居候と呼ばれ出した時から胸をよぎる。俺達には、悩み、不安で、試行錯誤を繰り返し、自分を賭けていくような事が出来ない。出来なくなった。全てが横から口を出すだけ、何も決めることが出来ない。要するに半端物なのである。その俺がいくら自分の夢を口にしても所詮何の意味の無い事だろう。もはや、ワングルで何も求めない。失望するからではない。虚しいからだ。今、この山小屋に小屋始まって以来最大の人数が居る。歌を歌う者、話をする者、寝ている者、みんな思い思いのことをしている。しかし、思いの**の一がここに居る人たちががやっているだろう。歌を歌うのも一つの虚構。今無性に酒を飲みたい。嘗て、この俺の居たこの床の上に友が居た。今はめいめい、去り遠ざかった。その過ぎし日を懐かしむ。何故涙が出るのだ。何故泣けてくるのか。俺の悔いの涙か。感傷の涙か。月が煌々と照る所。風が吹き、笹がガサガサいい、雲が行き交う。そこに佇む時、思いはあの日、あの時。ここに机があり、椅子があった。友と語り、酒を飲み、この椅子から落ちた。このベンチは、彼が作ったベンチ。この木は刈れと切り倒した木。それをさわる。それが皆古ぼけたと同じように、みんな過ぎ去りし日のこと。なぜ泣けるのか。悔恨の涙か。

OB11期 タカハシ高橋秀雄

今日帰るつもりが、またまたもう一晩ここに泊まることに予定変更。今日一日小屋の仕事、随分やった。山小屋、段々良くなって来る。自分の手を加えることは楽しい。この小屋全く自分の小屋という感じ。それにしても今日は皆、良く仕事をした、全くびっくりする。うれしい。俺にとってこの山小屋は本当に重大な意味を持っているのだから、とにかく四年間W.V.を辞めなかった一因がこの小屋にあるのだから。今回の夏合宿、いろいろと頭に來た事がありました。けれど又、俺にも反省すべき事もありました。いろいろ言い過ぎたと思う事もありました。三年の皆さん、ごめんなさいな。でももう夏合宿終わってしまったけれど、今後、

もっと頑張ってください。二年生の皆さん、ご苦労様でした。一年生もご苦労様でした。明日は必ず帰ります。これまで予定変更多すぎた。どうも山小屋に来てしまうと、帰る気しなくなる。良いことか、悪いことか分からないけれど。とにかく山小屋の整備、しっかりやって下さいな。

OB11期 桜井謙一

昭和46年8月4日(火)

山小屋整備、夏合宿1, 2, 3隊が小屋の整備をし、その他の4, 5, 6隊が下山し、五八木荘にて畑仕事を手伝い、風呂に入る。小屋の整備は、土間のコンクリート打ち、防腐剤ニス、二階の畳の虫干し、えんとう。

叫びたい 無性に！！隊で恋の愛のはなしをした。みんな多くの人が意中の人が居た。けれども私にはいない。目をつぶって頭の中には誰も浮かんでこない。寂しくなった。悲しくなった。私はみんな好きなんだ。一人一人それぞれみんないい人で魅力的でーみんな好きなんだ。それ以上の何か(?)が生まれたい、私の心はからっぽみたい… …そして消えちゃう。今、人を無性に愛してみたい。みんなを愛してしまうみたいだ。私の前に私の気持ちー今のlimitを越えてくれる、そんな人が現れてほしい…。極値というかわからない、何か限度を感じる。みんな愛してしまいたい！！だって、みんな素晴らしい、人間て素晴らしいもの。大きな愛を持ちたい、でも物足りなさ、寂しさを感じる、なぜかしら・・・本当に勝手なこと、へんなこと(少しおかしい私です)書いてしまってますみません。

4年12期 望月章子

雪の降る季節、私はそれが大好きです。全ての汚らしさ、醜さを覆い尽くされ、人の心も蘇るからです。白い世界、理想の世界なのです。雪の季節が好きで山小屋に手を出してしまった私。文字通りワングル活動は、即、山小屋活動になってしまった。ふるさとの無かった私に、白い世界が、私のそれになってしまったのです。紅葉の妙高に訪れた私は、その深紅や黄色の鮮やかさに、人工の美とは、勝るとも劣らない艶やかさを見たのです。どぎつい色も自然が作ったものは美しい。妙高に惹かれてしまった。夏合宿後、終結してきた「なえな小屋」、いろいろ騒がしくても、結局、小屋なのです。雪や紅葉で感動した小屋なのです。でも早く、元の小屋になって欲しい。夏の終わりの近づいた頃の小屋にも、結局感動する筈ですから。今日赤とんぼ、236匹見ました。でもこれウソです。

3年13期竹村昇

昭和46年8月5日(水)

5時45分一朝ある木の上で(?ヒミツ) 今日
日は最後の日です。本当に最後の日です。明日帰るん
です。長いようでアツという間に過ぎてしまった14
日間…。半分イヤイヤ来た夏合宿…結局、何もなかつ
たかもしれないけれど、何かのあった夏合宿であった。
良かった、やっぱり来てよかった。何となく大勢の山
小屋に失望したけれど、やっぱりいいなア。山小屋に
も来て良かった。みんなも好きになって下さいネ。私
も何となく山小屋に惹かれちゃいそうなんです。一そ
んな自分が怖い。またまた話は夏合宿に。夏合宿、
合歓隊の9人の、よりすぐれた(?)みんな、本当に
ありがとう。みんなが居たからこそ、みんなと一緒にだ
ったからこそ、本当に、こんな素晴らしいものだった
のです。ある程度私にとっては・・・。

夏合宿無事に過ごせてよかった! 自然の中にいると
自分を飾らなくて良いし、ありのままの自分で居られ
る一素直で嘘のない! じっと自分の心の中を見つめる
ことが出来る一だから良いんだなあ。私は山が大好き!
山道を歩きながら、道端の、ひっそりと咲いている
花に出来るだけ目を配るの。誰にも認められないで
咲き終わってしまうのは何となく可愛そうですもの。
小さなお花さん、貴方が一生懸命咲いているの見まし
たよ! そんな気持ちで見ると小さな花の一つ一つがと
ても愛らしく思えて登りの苦しさも忘れることができ
るの。夏合宿でも沢山の花を見ることが出来てしあわ
せ! 満天の星を見たかったけど、夜になると眠ること
しか考える余裕が無くて、流れ星一つ見ることが出来
なかった。残念! *さん、”人に惹かれても押さえつ
ける気持ちが生まれて消えちゃう・・・” その気持ち、
私にもよく分かります。全ての人を愛そうとすると、
どうしても物足りなさを感じざるをえないのではない
でしょうか。人間て我が儘なものなので、自分が愛
したら同じだけ相手にも愛して貰いたくなるんじゃない
? *さんの場合、全ての人を愛そうという理想の方
がまだ強いね。数年(と言っても1, 2年だけど)
前の私もそうだった。今は、心の前面に出てきてない
だけ。

1年15期 谷島章予

今日こそは徹夜をする事に決めた。今までの4日間は
挫折したけど、今日は頑張るゾー。眠くなったら懐電
で目を照らすことにした。お主やるな、眩しいヨ、俺
は起きてるゾー。牛窪さんは鈴木まささんのシュラ
フに潜り込んだ。欠伸をしたら懐電で口の中を照らし
たのは誰ゾー。高橋さんだゾー。下手な歌を聞かせるナ
ー。眠くなってしまうじゃないか! 風が吹くと屋根が
パフパフいう。高橋さん、お願いだから歌を止めてく

れ、気が狂いそうだヨ一、やめてくれ一。でも、歌を
歌わないと眠いヨ一。何て書こう。牛窪さんは”シツ
コクシツコク”を連発。「冬の日の恋」の唄は大嫌いな
のだ。どうして?なぜ?どうしてもなのだ。田中起き
ろ、筒井起きろ、八木おきろ!みんなしつこくおこし
ちゃうぞ一。やっと小屋の整備がおわったのだ。台風
来るのかしら、心配だなア。”なえな小屋”の目印(小
屋のカンバン)がたおれないかしんばいだなあ。明日
から一体何をしたらよいかかな?ヒマノダ。私は家
へ帰れるノダ。うれしいなア。そうだ、時計直さない
と明日から時間が判らなくなってしまう。皆が出てい
くまでに動かさなくては! 飲み過ぎて吐いた人たち、
もういいのかしら。飲むときグイグイ飲んでも、気持
ち悪くなったら楽しくなくなるじゃないかな。今日の
分はこれで終わろうジャン。イヤダヨ一まだ終わらせ
ないモン。竹村さん眠いんでしょ?だからそんなこ
と言うんだわ。

3年13期NT竹村昇

もはや 8月6日。突然思い付いたが、実に今日は、
広島に原爆が落とされた日ナノダ、こういうことを思
い付くとは、俺の頭もまだまださえ渡っているヨ。皆、
黙祷!! 只今、松*よりこの日記を強奪して来た。気
分爽快、ジャンジャン書イテヤルゾ! ついに夏合宿
は終わった。いろいろあったけど、今日の解散式で全
て終わる。実に実に気分イイ。遠い過去のことになっ
てしまう。実に気分イイ。こうして、思い出の抽斗に
深く深くしまわれるのだ。そして今度出てくるときは
ハタキがかけられ、きれいなきれいな思い出として引
き出されてくるのだ。醜いところ、厭なところは削ら
れ、又は直されて・・・人間って旨くできてるもんだ。
さて、もう一部ハタキがけが済んだところで、夏合宿
の思い出、といこうかしらん。アタクシの隊は、尾瀬
は大清水から入ったのでありました。着いたとたんに
雷雨の歓迎、思えばこれがケチのつきはじめだった。
とにかく雨にたたられたヨ。Mは腹が痛いって言うし、
もう俺はどうしたらいいのか分からなくなった。でも
何とか長蔵小屋まで行った。予定の赤*平迄行けない
事は無かった。でも最初だし、無理はしなかった。そ
して2日目、引馬への大遠征・・・もうヤメタ、眠い
ノヨ。もう、臉が重い。今、屋根の上を歩いているバ
カ共が2, 3人居る。多分、山ノ井、高橋さんあたり
だろう。チキシヨウ、ウルサイヨ、アー、もう皆寝ち
まったようだ。寝息が聞こえる。イビキが聞こえる。
また誰か起きてきた。ササヤイテいる

…3年13期NT竹村昇

昭和46年8月6日(木)

今、小屋にいるのは、俺とその他7人。何故か皆がバスの中で手を振りながら小屋を去って行くときも、寂しさを感じない。何の心の変化も無いような。苦痛からの開放は、虚しさと苛立ちのみ。今、非常な怒りが体の中に沸き上がってきている。自分という存在の設定されている場に、時間に怒りを感じる。夏合宿に対して、8月6日という日に対して、自分という愚かな人間に対して、そしてその周りにいる全ての存在に対して。今度の夏合宿は何だったんだろう。ピストンまたピストン、そして停滞そして停滞、全て天候のせいにするには、余りにも無責任過ぎるかもしれない。それはリーダーが弱気になりすぎたせい。そして夏合宿そのものに、何の目標も設定出来なかったせいか。とにかく、夏合宿が終わってみて、その成果の継続がこれから在るとは考えられない。そんな気がする。こんなに失望の少ない山行も珍しいが、満足感を全く感じえない山行も珍しい。今はただ歩きたい。今はただ星を見たい。誰も居ないところで。何に対して、どうして怒りを感じるのか言葉にならない。そしてもし、言葉になったとしても、それを放出する気もない。もうだめだ。もういやだ。もうやめた。

Ryo*

やっと終わった。夏合宿が終わったのだ。この3年間結局、この日のために、日々活動していたようなものだった。なるほど俺は弱体かも知れない。大したコースを歩かなかったかも知れない。しかし今は、ただ全力を尽くしきったという気だるさで何となく満足している。この満足はリーダーだけのものかもしれない。もうPWで山に行かないかもしれない。山、山と憧れていて、待望の夏休みにはいると同時に山に籠もり既に26日間、途中夏合宿の準備で3日間家に帰ったものの、こんな長い山の生活は初めてである。そして、結局何も得られていない様な気がする。全力を出しきったという事以外だが。あんなに憧れていたのに、今は欲望が満たされて、虚しい。人間とは悲しみの動物である。次に求めるものが無くなった人間は悲しい。これから先、ワンゲルで一体何をすれば良いのか！目標の無くなった人間が、新しい目標を探さねばならないというのは、大変な苦しみである。いっそ、クラブを辞めてしまおうか。そんな気もする。こんなに頭の中が空っぽになったなんて初めてである。もう少しこのままで居たい。欲望のママに動く人間で居たい。人を素直に信じられる人間で居たい。単純で馬鹿な、そんな人間に。空を見ながら寝ることにする。

3年13期NT竹村昇

夜中 2階の或る片隅にて 人間は結局独りぼっちなんだナア。今は勉強したい、本を読みたい、自分のことをしたい。慌ただしい生活に疲れちゃって早く家

に帰りたい気持ちを抑えて、もう1日山小屋に残ってゆっくりと気持ちを落ち着けてから帰りたいと思った。元の生活に帰ったらいろいろなことを考えなくては。考えることがいっぱいある。逃げちゃいけない。山の生活は逃避ではないんだ…でも空白な時だとも感じる時がある。楽しいが全てじゃない。苦しいが全てじゃない。また元の生活に戻っても全力で何事もやっついていなくちゃ。山の生活に生き甲斐を感じちゃいけない、て先輩が言っていた。本当にそう思う。今の自分はとっっても我が儘で自分勝手なような気がする。自分のことしか考えない自分、いやな自分、だけれど今は自分で考えて生きていきたい。悪いことかも知れない、間違っているかも知れない。でも今は自分なりに真実を探しながら生きていきたい。今は他人のことを考えたくないし考える余裕を持ってない。自分が判らない。私は自己満足の強い女の子で、そして甘えているんだ、全ての人に。私は弱い、頼ってばかりいる人間だ。私を理解して欲しい。いや、してくれなくても良い。

1年15期 谷島章予

今日のニジマスのごっちゃ煮に塩味のチャーハン、おいしかった。暖かい日本酒。こんなお酒は楽しいナア。本当においしかった。みんな大いに満足していた。やっぱり残って良かった。みんな、少数で山小屋に来てごらん。山小屋の良さがわかるよ。山小屋独自の雰囲気と言うか、暖かさを感じるよ。きっと、きっとおいでよ。いろいろなこと考えてサー。例によって竹村さんはニジマスを釣れなかった。いつになったら釣れるのかなア、ガンバレ！！一番先に釣ったのは山下さん、ワアー大きい（その時は思っていた）みんなの喜んだ声、山下さんのうれしそうな顔、そこまでは良いが、後が悪い。次は高橋さん、これは大きい。山下さんの2倍もあるゾー。そしてグルグル回って遂に私の番、ワアーこれまたもう少し大きいぞ。グルグル回しすぎちゃって、針を飲んでしまって、取るのに困ってしまったが遂に糸が切れる。うらめしそうな顔してるぞー。そしてそして弱体ムードだった山ノ井さま、入れたとたん、パクリと食いついた。ワアこれが一番大きい大きい、山ノ井さん、バンザーイ。遂に竹村さんまで回らなくて、おしまい。後の榎本さん、赤松さん、小泉君は全くの弱体でありました。一ごめんなさい！一明日帰る予定だったけれど、もう1日延ばしちゃおうかナア、どうしようかナア、明日になったら考えよう。今日も又寝ずに居ようと思ったけれど、この3日間寝不足のたたりで、もうダウン寸前だ。夜寝ることがとても勿体ないみたい気がする。だってそれは空白なんだもの…山小屋来ると特にそれを感じる。夏合宿の幾日間は寝るのが楽しみだったのに…神様、人を信じさせてください！私は信じます。真実を

求めていきたいんです。

章子

ps.支離滅裂で汚い文章でこのノートを沢山埋めてしまった事、本当にごめんなさい。

1年15期 谷島章子

昭和46年8月7日(土)

今日俺は帰る。山小屋を離れて行く。それがワングルを去ってゆく事にならないで欲しいと自分に願う。きっと今年中に又来るだろう。別の、今とは違った、もっと楽しい、苦しい気持ちで。これで俺にとっての夏合宿は終わる。言葉に表すほどのものが残っていないようだ。自分では未だ総括しきれないのだ。やっぱりリーダーはガムの銀紙なのだろうか。こんな考え、少し傲慢過ぎると思う。でも、ガムの銀紙でしかなかったら、俺は自分を虚しく感ぜざるを得ない。今まで自分がワングルに居た事は全て夢であったのか。俺は1年の時人を信じることを教わった。俺は2年の時人は信じられないことを知った。俺は3年の時人は信じなければならぬことを学んだ。でも、人を信じた振りだけはしたくない。自分を隠す演技力だけは身に付けたくない。今のワングルは、人間と人間の繋がりに縛られているような、そしてその繋がりがゴチャゴチャになって、自由な個人も、サークル的人間も居ないみたい。ワングルはワンダラーの城だけど、ワンダラーと共に動かなければ、やがて滅びるゴーストタウン。自由に生きる、それが欲しい。だから一人であるきたい。自由に生きる、それを見たい。だから星空が美しい。自由に生きたい、それを大事にする。だから人を信じる。 シャロム。美しきすべて

Ryo*

実際的人間は感傷を嫌う。自分の目標の為には己の感傷など捨てる。俺もかつてこうであった。山小屋日記に向かっても、何も書くものが無かった。その日の記録を付けるのみ。いつから変わったか分からない。目標を無くし、意欲を無くし、ただ漠として山へ行き、小屋に来る。今の人間は、己を大事にするのか。目的、目標を達成するよりも、己の、その瞬間、瞬間の自分の感情を大切にする。そんな人間が多くなったのか。それとも、傷つき、涙する人間の集まりなのか。とにかく、今の山小屋は、山小屋日記には、そんなことが多いような気がする。その為に己を殺し、ひたむきに努力し、他の人の感傷に吐き気を催す、そんな人間が嘗て居た。そんな人間に、人と人との交わり、人間を求める云々は意味を成さない。野に咲く花には目を向けるが、道端にある草には何にも感じない。頂には心を奪われるが、峠には気が向かない。

山小屋の周りにガスが忍び寄ってきた。今朝は上々の天気、空気も澄んでいたのか、志賀方面の山々がはっきり見え、わざわざ炭焼小屋跡まで見に行った。昨日までザワザワ居た人達が居なくなった今、さっぱりしたという気も、寂しいという気も起きない。今俺の心を二つの事が占めている。一つは飯豊のPWの事。もう一つは、小屋から帰った後の横浜での生活。飯豊のPWについては、一緒に行くと行った人達には全く申し訳ないと思う。審査会を拒否してしまったのは、俺自身の感情で、たまたまへそが曲がっていたのだ。尤も、審査会そのものや、3年生に対して頭に来ていた事もあったが、とにかく俺のへそが曲がっていたのは、朝起きるのが1時間早かったという理由による。今後どうするかと言えば、現時点においては、堂々とチョンボをするつもり。一人でも行くつもり。生きたい者が居れば一緒に行く。というリーダーとしては、甚だ無責任な態度きりとれない。とにかくこの問題は小屋から帰った後にしたい。俺は多分、10日に家に帰り、12日から再び山に行き、家に落ち着くのは16日からだと思う。落ち着くと書いたが、その裏には何もする事がないという事なのだ。いっそのまま金の続くまで、小屋でブラブラしていても何ら変わりがない。寧ろ金がかからず、涼しくて良い。しかし俺は横浜に帰るだろう。何の為に？誰か教えてくれ、いや、探しに行く為に横浜へ帰るのかもしれない。

4年12期 山下久男

しみじみと俺の責任が終わったと感じる。後は山小屋の会計とノートを整理して2年生に渡すだけになった。この1年間思い出してみることにする。2年生の参考になればと考える。昨年の8月、岡戸さんから、岡戸さんに次の山小屋委員長と紹介され、何か分からないが、そんな気になる。その時はともかく岡戸さんが一人で切り回していたのだから当然だと思う。10月に尾瀬にチョンボを計画したがダメになり、小屋に入り、妙高・火打をチョンボしようと再び決心したが、またまた山川氏などにバレル事になると思い断念。結局岡戸さんのところで稲刈りをした。岡戸さんに名前を覚えて貰い、アタシしか居ないのかなーと考え出す。チョンボで妙高に登る。11月に執行部交代をして、正式に山小屋委員長になって、山小屋の会計 ノート記録を渡され、今までのずさんさにあきれ。新しいノートと会計の帳簿をキチンとつけ始める。そしてまあ、ビックリすることに、赤字ではないですか。(黒のボールペンがおかしいけど) ともかく今年はデカイ事はできない事を悟る。3月に山小屋委員会を上高地で開き、今年の方針をうち立てる。4月にもう一度山小屋委員会を開き、5月に一次の整備と、八月の整備の調査をする。窓の大きさや手すりの長さ、雪囲いの構想、煙突、土間のコンクリート等の調査、6月に

俺の持っている鍵と岡田さん宅に置いてある曲がった鍵を取り替えに来る。7月にトラックで、石炭、石炭ストーブ、材木、食器棚、食器、布団、毛布、下駄箱、机、本立て、煙突、セメント、砂、等を運ぶ。広瀬、筒井に手伝って貰った。カーテンなども運んだっけ。高橋さん、山川さん、広瀬、筒井に手伝って貰った。そして夏合宿、銀山平終結後、山小屋整備となったのであります。

8/3 整地、溝掘り、ゴミ穴・キジ穴堀、床のペーパーかけ、煙突直し、防腐剤塗り。

8/4 陣頭指揮山下さん

8/5 溝掘り、展望台までのヤブの刈払い、床のニス塗り、雪囲い、薪作り、整地。

これで俺のやった事は終わる。あ、そうそう、3月に山小屋の栞と山小屋ニュースを、山ノ井と小口が作った。結局大したことはしていないけれど、精一杯やったつもり。始めは一人で全てやってしまおうと思ったけれど、結局、人の手を借りてしまった。でも当然だ。そして今まで俺一人の山小屋なんて思ったりしたけど、今は山小屋を大切にする全ての人のものと感じる。これからは無責任に(?)俺の教わった山小屋のこと全て、山ノ井でも誰でも教えてあげたい。そうして、9月でも10月からでも、山小屋を切り回して貰いたい。山小屋委員長の心構えなんて、俺、頭が悪いのか書けないので、その都度話をしようと思う。ともかくこの1年、山小屋エゴの私であり、執行部の皆さんにいろいろ迷惑をかけてしまった。これからは静かに行くことを誓います。

3年13期NT竹村昇

ただ今5時、昼に食ったソーメンも、その後食ったじゃがいもも全て消化され尽くしてしまっ、既に直腸の方へ回ってしまった感じ。今日の夕食のメニューはカレータ顔(もの凄い味なんだゾ)とフキと高野豆腐の煮付けもの、それからマカロニのサラダ。カレーは俺特製、できあがった頃に制作意欲を失ってしまい、山ノ井にバトンタッチ。だから味の点において責任があるのは山ノ井様ですからあしからず。そんなことどうでもイイヨ。ハラヘッタ!!他の奴はまだまだ元気で、屋根に登って騒いでいる。遠くに雷の音がする。どちらも俺の空っぽの腹にはこたえる音だ。今、5時5分、山ノ井のお姉さま、やっとお釜を火にかけてくれたようだ。食べられるのは6時頃になるのかな。今日1日、どこも出掛けなかった。その代わりに、キジ紙入れ箱と流しの中のスノコを製作、上々の出来。昨日より禁煙をしている。昨日の午前中あまり吸わないでいたら、結構それで過ごせた。11時頃、最後の1本を吸って、それ以来だ。さすが宮前からバスが発車したときは後悔が残った。現在、やはり吸いたい。しかし未だ禁断症状なんて無く、後3日くらい平気という感

じ。それに、何と言っても金がかからないのは、現在所持金2000円の俺には嬉しいことだ。

4年12期 山下久男

マキ「恋をすると女らしくなる」

竹村「おれ恋しているから女らしくなったな」

全員(笑)

全員ニンニクを食べたせいか、おかしくなった。特に竹村が一人でのってる。

竹村「この布団、クサイ。ああ、誰か漏らしたのではないか」

竹村「空キジ撃つと、ニンニクの匂いが臭い」

全員(笑)

山小屋に居るのは7人。おじいさん 高橋、ヒゲのおじいさん 榎本、居候のおじいさん 山下、お父さん 竹村、お母さん も 竹村、お姉さん 山ノ井、おにいさん 小泉、あかちゃん 谷嶋。実に家族的雰囲気が漂っている。

パンツの話

山下「俺は毎日、パンツを替えてるぞ」

「白い色は パンツの色・・・」

「白いパンツを・・・」

「チラッとパンツが白かった、チラッチラッ・・・」

まず最初の空キジ者 山下さま

赤松さんが帰っていった。急なことだった。後を見ていたら悲しくなってきた、何となく。また来て下さいネ。少し食いバテ気味。でも満足! 夜みんな下で寝た。山ノ井様に恋占いをやってもらおう。計3名。私の気持ち、自分自身の気持ちが分からないからやってもらった。好きとか嫌いじゃなくて。まず半分ふざけ気味で山下さんとやる。…少し当たっていたナア…山下さんゴメンナサイ。あとはないしょ。「まだ18だ、これからだよ。恋に恋いこがれるのはつまらないゾ」って山下さんが言ってくれた。そうだな、本当に。でもわからない、今の私はわからない。明日 どうしても帰らなくてはいけないので、何か書かなくてはいけないし、何か書きたい。でも、ゴチャゴチャだ。今は一人でどこかへ行きたい。全ての事から切り放たれて、自分のことを見つめたい。やっぱり恋に焦がれているのかなア。きっと、焦りもあるのかなア。ワンゲルに居るとそういうことが目について、耳について・・・うるさ過ぎるんだ、そういう事に・・・私は、今の私は他のことに全力を 誠意を持たなくてはいけないんだ・・・。でもやっぱり、それに満足できない何かがある。みんなきらいだ!みんなのこと大好きだから、みんな大嫌いだ!!

1年15期 谷島章予

ウィスキーを飲んだ。疲れからかほんの少しでまわっ

た。今は汗をかきながら何となく満足、空っぽの頭が面倒くさい。切ってしまいたい。酔う っていうサーと初めて思った。何も考える必要が無いから。遠くで雷が鳴っている。時々暗い空にピカリと来るんだ。隣で山ノ井がペチャペチャやっている。別に気にならないけど、あいつはタフだー。ともかく今は、じっとローソクを見たり、天井の煙突を見たりしている。

3年13期NT竹村昇

ここで竹村さんはダウンZZZーまだ起きていた。私は人を理解したい。理解してどうこうと言うのではなく、私は人間に魅力を感じる。でも、限界みたいなものを感じる。人を好きになっても結局、表面的みだナア。その人の全てを理解出来ないみたいだ、とっても悲しい気がする。私は空っぽな人間なんだ、バカで、考えが浅くなって、甘くなって！そんな自分、嫌いだナア。もっと考えたい、自分の考えを持ちたい、私は愚かな人間だ。浅はかで、何も無くて…何もない 表面的なものだけ、もっと考えなくちゃ、もっと勉強しなくては。自分をもっと確立しなくては 本当に人のことなんて理解出来ないし、本当に人のことなんて愛せないネ きっと。今は空っぽ。逃げちゃいけない…全てのことを。

1年15期 谷島章予

横浜に帰りたくない。煩わしい人間関係に巻き込まれるなんてイヤダ！自分のやりたい事が分からなくなるなんてもきらいなのか。再び昔に戻りたい、何でもガムシヤラだった自分、強引だった。本当に人を蹴落としても自分の目標に向かったっけ、今は疲れた。人間って夢中に何かをやっている時が一番美しいと思う。オレも今に、きっときっと目標を見つけて、まっしぐらに向かって行くだろう。出来るような気がするし、やらなければならない様な気がする。今はただ休養するだけ。瞬間に燃えたい、ただそれだけ。

昭和46年8月8日(日)

(時計もカレンダーも無いから曜日分らず)

皆が帰ってから俺達は、と言うよりオレは一体何をしたのかサーと考える。小屋の整備だって大したことしたわけではないし、飯も作るわけではないし、ヒマでヒマでしょうがない筈なのに、心は和まないんだ。そしてひまな筈なのにヒマを見つけてはこのノートに向かい戯言を並べる。全く非生産的に生きている。このノートを、そんな戯言の為に使っているのかとふと考える時があるけど、結局結論なんて出ないまま再びノートに向かい戯言を並べる。現役とOBの交流の場に、なんて考えたことがあるけど、これが現役の心だ

ったら、それで良いんじゃないかな。ともかく、オレが小屋に来て既に7日目、こんなに小屋から外に出ない事は珍しい、いつもビクビクしながらそこらの山に登ってるからネ。この間は遂に、退部勧告を受けてしまった。でも、誰も俺を止める事はできないゾ。

8月8日 朝。 ついに最後のページになった。少しさっぱりした感じだ。本当に残って良かった。何も気を使わなくても、みんながそれでいて旨くいける、そんな雰囲気にとっても好きだ。自分で居れる感じがする。今はみんなと1対1で話せる。自分の意見をはっきり言える、相手の考えを聞ける…そんな自分になりたいナア。私はやっぱり私なりに考え行動していきたい。私は私でいる。私は18才です。私は自由に空を飛ぶ鳥で居たい。さあ、ココを出たら、本当の自分の世界だ、精一杯やろう。山小屋・みんな本当にありがとう。またきっと来ますネ。

(アキ)

ハチが二つ並んだ日、明日は母の誕生日、そして…。今日私は帰ります。山小屋整備後、二日も残っていた。食事の支度、小屋の整備…そんなことをしていました。北アのPWに行かないで月末にまた来ようかな、と考えています。その頃はススキの穂が出て、赤とんぼが沢山飛んでいるのかな。皆さん、さようなら、山小屋さん、さようなら、又会う日まで。

2年14期 山ノ井とし子

10:30 ついさっき、女の子二人が帰った。小屋も男5人になってしまった。俺の精神状態が少々狂ってきた。禁煙の為なんかではない。つい今まで一緒に生活していた奴が、急に目の前から姿を消してしまうという寂しさ。しかもこれから1ヶ月ぐらい、話を交わすことが無いかもしれないのだ。別に俺は女の子が居なくなった事に不満を感じているのではない。明日になれば、また二人消える。山小屋って何だかすごく寂しいものなのかもしれない。誰か来ないかな。OBでも、知らない人でも良い、ヒョッコリやってきて、一晩ぐらい泊まっていてくれないかな。

4年12期 山下久男

10:45 現在 高橋さん…どでかいローソク立てを製作中。しかしあまり器用でなく、窓のレールを壊してウロウロ。

榎本さん…さっきまで布団の上に座り水虫の皮を剥いていた。今は高橋さんの手伝い。

小泉さん…鼻歌まじりで昼食の用意。女の子が居なくなったので仕方がないが、彼としては珍しい、よほど腹が減ったのだろう。

竹村さん…女の子を見送りがてら、杉野沢へ。今頃

ガラス屋で笑われていることだろう。

山下さん…布団の上にゴロツと横になり、山小屋日記を書いています。彼女の事でも思っているのでしょうか。(山下氏のキンチョール作戦から逃れた 未だ元気なアブ

記) 4年12期 山下久男

時が経つのは早いものだ。今年も夏合宿が終わった。いや、やっとなかかもしれない。今、山小屋に居る。睡眠不足のせいか、目がかたくなる、何をやる気にもなれない。今日、又、女の子二人が帰っていった。ボンヤリしてしまう。虚脱状態。昼飯を食った。小泉が作ったソーメン、サラダ、焼きナス。実に豪華な感じで食べた。

虫がブンブン。あれはアブかな。ガラスの外の世界に出たいと叫んでいる。さっき、アブの羽をむしってしまった。一生懸命飛ばうともがいた。そしてやがて、やがて自分の姿に気が付いたのか、ノコノコ歩き出した。そして、時々ピョンピョンはねていた。

俺の心の中から、感情が消えていったのかな。母が突然泣き出しても、夕食の時、平然としていられる。母の言葉が胸に響かない。俺のやっっていく事は、もう決めてしまったからかもしれない。一体俺は、何をやっていこうと言うのだろうか。親の期待を裏切り、全てを隠し、口にせず、俺はどうしようと言うのだろうか。

遠くに離れていると無性に会いたいのに、何で俺は親不孝者なんだろう。全て、自分大事に、どんな小さな傷も受けたくない、そう思っているのかもしれない。

女の子を送っていった。3週間近くも一緒に過ごしたのに、もう何の繋がりも無くなると思うと悲しい。結局ワングルのパーティーってそんなものなのかなア。あんなに長い間一緒に居たのに…ワァー!! 結局どうしようも無いのかナア。別れるときに何か言ってやろうと思ったけど、弱体の俺には何も言えなかった。握手をして「さよなら」を言うのが精一杯だった。お宮前で降りて、しばらく階段で座ったままだった。涙が出そうになった。悲しくて悲しくて、虚しくて虚しくて、疲れがドツと出た。今は眠くて眠くて。早く元の生活に戻らなくてはいけない。こんな生活をしていると「片輪」になってしまう。やっぱり山の生活は俺にとって一時的逃避でしかないと悟った。ここではいくら頑張っても仕方ないし、人間って社会的なんだ。後2、3日ここに居るつもり。早く帰りたいけれど、帰る前に考えることが沢山あるようで、このまま帰っては山に入った意味がなくなるようで…。ともかくのんびりもう少しここに居る。もの悲しさ、虚しさを整理したら帰ろう。 イジケてしまったのか

3年13期NT竹村昇

7:50 外は濃密なガス。音は竹村が発する騒音のみ。外の3人は花札に打ち興じている。今、書くのを中断して、3人に役を教えてやる。明日帰ることに決めた。理由は別に無いが、なにしろ帰りたくて仕方無くなった。しかも、昼間の内に帰ることにする。夜、上野駅に着いて、これから京浜東北線に乗らなければ、というのが無性に厭だ。昼間の内に景色を眺めながら帰りたい。

考えてみると先月22日に家を出てから20日近く、俺にとって最長だ。普通ならもっと延ばしてやれ、などと思うのだろうが、今回だけはどうしてもそうならない。6日、全員が帰り、その後、宇佐川(13)、海保(13)、が帰り、7日に赤松(13)、今日、山ノ井(14)と谷島(15)。寂しいという感じではないが、あせりの気持ちが高ぶってくる。この20日間、不安、焦り、絶望、いじけ、ふてくされを繰り返して、本当に安定した精神状態の時は無かったようだ。もうこのまま、ここに居ても回復しそうにない。火打を登らないのがちょっと心に引っかかるが、無理して行く気にもなれない。竹村、小泉には悪いが、一足先に帰らしてもらおう。横浜に帰って何があるか、何もない。経済状態を考えるとバイトをしなければならぬが、それもやる気がない。帰った次の日、電話して会ってくれる女の子が一人ぐらい居る気もする。会って何を話そうか、何もない。疲れたと一言言って理解してくれる様な女の子がほしい。この精神的不安定は女の事なのか、いや違う。横浜に帰ったら、多分俺は勉強すると思う。ずっと考えていた。なにしろ机の前に座ってノートを広げ、ペンを取り、数学の問題を解きたい。多分30分ぐらい考えて解けず、ペンを放り出して、そのまま布団の上にゴロツと横になってしまうかもしれない。それでもいい。一つだけの事に集中出来る時間が数分でもあれば。

4年12期 山下久男

10:20 紛争以来、俺の精神の発達は止まってしまったのか。完全な空白期間がある。今考えても、何をやってたのか、少しも思い出せない。自分の内部にばかり気が入って、外部の状態や現実把握など、曖昧だったのか。そして今、その自分の内なるものも、はっきりしない。もはやその悩みや苦しみが全部外に出てしまったのかもしれない。そしてその時はっきりと、自分の精神がカラになった気がした。それと同時に、外からも俺に向かう力を知った。そして、俺がこの環境では動き出せないことも。所詮、俺は内的なのか。一步を踏み出すエネルギーさえも持ち合わせていない。もう、このまま流れて行くのみ。 ワングル。俺は絶えずワングルを取り続けて来た。決定的にワングルを虚しいものと思った。2年の夏合宿後。もしあの時、俺が山小屋委員でなかったら、あの時カツドン

を食べなかったなら、俺はワングルを辞めていただろう。俺をワングルに繋ぎ止めたのは、友と、この山小屋であろう。それまで、ワングルについて一体何を知っていたのだろうか。その俺が主将などになってしまった。そして、何も分からず、友と、ああだ、こうだと話し合ったことを思い出す。どうして山小屋へなぞ来てしまったのだろう。そして又、今日まで残ってしまったのか。俺の心の中には、焦りなど微塵も無い。失意泰然なのか。いや、そんなに俺は立派でない。焦りに焦って、加熱して、どこかの回船を燃やしてしまったのだろう。ともかく俺はここに居る。そして何処へも行きたくない。

OB11期 タカハシ高橋秀雄

11:30 月が満月の状態を終え、右側から欠けだした。家を出た頃は新月だったと思う。でも、俺も家も、何も変わってはいないのだろう。山小屋日記を書くのは、これで止めたいと思う。明日の朝8時半頃には、この小屋ともさよならするつもり、そっと帰って行きたい。書くことなんて何も無い。少なくとも、この日記に書くべきものは無い。今考えているのは、ワングルのことでも無いし、山小屋のものでもない。全く俺個人の問題だ。そんなこと書いたって、後で読み人にとっては、おおよそつまらないものだろう。でも書きたい。書かなければ居られないという気持ちだ。もし数十年経ち、再び俺がこの山小屋に来たとき、この日記が残っていて、ああ、あの頃俺はこんなだったのかと思い出させてくれるだけでも良い。その為に書いておきたい。

俺は最近、若さというものと縁が切れてしまったようだ。悟りきって老人のように、全てに超越してしまったような態度きり取れない。そこから逃げ出せないでいる為か、それともあまりに楽道家だからどうでも良いのか。よく分からない。少なくとも悟りきった心なんていやだ。(尤も悟りきった心なんて存在しないが。)そのような態度きりとれない俺はいやだ。夏合宿にしろ、もっとやりたいことがあった筈だ。何故あんなにいじけていたのか不思議でならない。体調が良くなかったからか。それもあ、逃げているのではない。山に入って身体をこわす事ほど怖いものはない。実際問題として、俺は夏合宿に参加しなかった方が、よりbetterだったようだ。それを分かっているが甘えてしまった俺は反省しなければいけない。部員の皆さん、申し訳ありませんでした。俺はこの3年間、ワングルの中で働いたという気はしない。ただ時間に流され、ヨタヨタと歩いてきた。これから1年半残っていても、同じ事だと思う。しかし俺は、このワングルから離れはしないだろう。今までと同じように振る舞っていくであろう。更にしかし、それも今までなら俺も後悔はしない。この3年間が全く、俺の人生の中で何事も残

らなかった、とは思わない。しかし、後の1年半をこのまま過ごしてしまったらと思うと、俺は焦らさずにはいられない。何のために1年留年したのか分からなくなってしまう。先に書いた、悟りきった状態というのを、良い意味にとれば、ワングルにおける俺の存在を俺自身が他の世界から眺めているからなのではないか。そこで俺は又、別な世界を発見したい。ワングルが勿論、俺にとって苦しくて、一刻も早く抜け出したい、と言っているのではない。再び書くが、俺にとってワングルは素晴らしいものであった。しかし、大学生活をそれだけで終わらしてしまっただけの良いのだろうかと思えるようになってしまったのだ。もっと別の世界は無いのだろうか、そんな気持ちが湧いてくる。既に、定期的に遅いかもかもしれない。しかしそれは、やらなければならない事だ。探していないかもしれない。あつたとしても、小心者の俺には入っていけない世界かもしれない、でもやらなければいけない。

4年12期 山下久男

こんな不安定な気持ちで夏合宿に参加したのです。夏合宿の途中、早く小屋に行きたいという思いは募るばかりでした。小屋に行けば数日はこんな事を考えないで楽しく過ごせるのではないかと思ったものでした。あしかし、いじけ、焦り、白けきった俺を、小屋はあまり歓迎は、してくれなかったようです。恨んでいるのでは在りません。俺が悪いのです。今度来るときは、今よりはもうちょっと明るい見通しが立ってからにしたいと思います。ですから、竹村やその他、山小屋委員には申し訳ないが、10月に稲刈りに来るかどうか分かりません。所詮この山小屋は、都会でのキズを癒しに来る所ではないようです。都会でのキズは都会でしか直せないのではないのでしょうか。山小屋は本当に遊びに来る所だと思います。少なくともこの小屋の中には、ワングル内の対立やイヤラシサだけは持ち込みたくはありません。その点、始終ふてくされていた自分が、申し訳なくて仕方在りません。

火打には登りたかった。これで、頂上に立てるのも、ずっと後のことになってしまった。しかし、今登っても仕方ない。妙高に登った時のような気分で、火打も登りたい。さっき、暇に任せて数えたのですが、山小屋に来たのも今回で14回目です。よく来たものだと思います。一回一回、楽しい思い出もあり、俺のワンドリングの中では重要な位置を占めています。いつもそうなのですが、この小屋から帰るとき、すごく怖くて仕方ありません。帰りたくないではありません。むしろ帰りたくて仕方ないときの方が多のですが。今も怖いです。何故か判りません。この夏休み中、もしこの小屋を利用し、この文を読んだ人がおりましたら、帰りましたら連絡して下さい。明日帰ってしまったら、1ヶ月、ワングルの人と会えないのは寂しい気

がします。どこかで山小屋の話でも、ワングルの話でも、女の子のことで良いですから、話をしたいのです。

4年12期 山下久男 記

12:35 今の俺は全く、俺自身でも分からない。明日帰る。これは何も、内的必然からではない。あくまでも外的に、である。歯医者に行かなくてはならない。そして、帰ってしまったら、きっとレポートの事、読みかけの本の事、北アのPWなどが、俺を満たすだろう。そして母から、バイトをしろ、などと言われるかも知れない。ああ！帰りたい。夏中ここで過ごしたい。そんな気持ちと、もはやワングルから、この小屋から去ってしまいたいという気持ちと、二つ重なってくる。9月に入るとワングルには、あまり顔を出さないかもしれない。それと同時に、この小屋にも当分来ないだろう。しかし、分からないのです。俺がワングルで過ごした総決算、又は、その結果など無いのです。従って、過去4年間やってきた事を、下級生に伝え、今の2年生が何をやるか、見届けたい気がします。しかし、今ここで虚しさを感じる。「これが真実だ」など少しも無いのです。俺が口を開いても、それが一体何になるのでしょうか。これが、私がこの小屋に来る前に感じたものでした。しかし、今現在、少し考え方が変わった。俺は俺のために、時間の許す限りの事をやっていきたい。決してOB面なんかしないつもりである。

ここへ来て様々なものを見ました。まず最初、驚いたのは女の子がブクブク太っている事でした。やはり、2週間近くも山の生活をしていると、身体のぬくみや食べ物のおかげで、あんなにも太るものなのではないでしょうか。それから、この合宿のまずさでありました。現3年生の考え方、意見等々の食い違い。そして根本的に、無い協調性。自分たちが合宿をやっていく、クラブ全体を動かす、そんな気構えがずっと昔に無くなってしまったのか。そして、あまりにスタイリストが多くなったような気がします。かく言う俺も、虚栄心が強く、人と和するより、孤で居たいと思うのですが。ともかく、みみっちい虚栄心なぞ捨て去る事だと思います。人間など、多かれ少なかれ虚栄心と猜疑心など、持っているものですが。俺達が執行部をとるとき、言われた「政治的発言など止めて、自分の本当を語り合うんだな」と言うことが思い出される。部の運営は、時として非常な決断と勇気が要るものです。それを支えていくものは、それを決めた人達の連帯であると思います。もう一つ心配なのは、虚脱感。3年生の中で、もう出てきているような気がします。とにかく、これからも新たに目標を立て、頑張ってください。

OB11期 高橋秀雄

昭和46年8月9日(月) 9:30

みんな出ていってしまった。竹村、小泉は山へ、山下は一足先に、榎本は乙見山峠を越えて帰っていく。俺一人残った。俺もあと数十分で出ていく。何もかたづけられない。このままにしていきたい。バスの時間が分からないから、何時出ていったら良いか分からない。杉野沢まで歩くカナ。

もう片づけが終わった。あと、小屋に残っているのは、食ったままの皿、寝たままの布団、起きっぱなしのザック。実に雑然と置いてある。これでいいのだ。

それでは、小屋よ、さようなら。何も出来なかったオレFだった。

OB11期 タカハシ高橋秀雄

小屋に帰って思ったこと「ヤッパリ」。高橋さんは実に優雅な人です、上の文章に「もう片づけが終わった」のは、自分のパッキングが終わったという意味でしょう。そして、そして・・・です、自分のパッキングの他は、本当に我等が小屋を出ていった時のままです。実に優雅で、後輩思いの先輩です。高橋さんが小屋を片づけて行ったら、私等後輩はビックリして心臓マヒでも起こすことは確実ですからネ。昨日食べた食器も、ローソク立て台を作った道具も、全てそのまま、勿論、今朝まで寝ていた布団、食べた食器は、片付けていないことは然り、小屋に入って、足を何処に置いていいやら全く判らず、ルートファインディングに苦労しました。実に、情け深いですね。涙を流して感謝しています。

小屋に今日は二人きりです、小泉とオレ、たった二人です。山下さんが、これは喧嘩するか抱き合うか、二つに一つだと言っていました、どうも今日は疲れて、遅い食事の後、グッスリ眠ってしまいそうです。今は、在る限りのローソクに火を付けて、「ユーガ」「ユーガ」を連発しています。お茶とお酒を少々飲んで眠ることにします。お休みなさい。

3年13期NT竹村昇

昭和46年8月10日(火)

朝起きたのは、多分10時頃だと思う。今までの疲れがドツと出たのか、グッスリと眠れた。腹が痛くて起きだして、小キジを撃ち、身体を少し動かして、再び布団の中、小屋に来てこんなにユックリ出来るのは初めてである。良き後輩に恵まれて、「飯が出来た」という声で、やっと布団から起きだして、遅い朝食か、早い昼食かを食べたのが11時。再び布団の上に横になり、一眠りしてしまった。人が恋しくなり、武庫川女子大の小屋に行こうと出発したのが3時頃、小屋には

誰も居なくて、こじんまりとした小屋の前に座って、くだらない話をして、小屋にたどり着いたのが 4:30、今は日記に向かっているのです。何を考えるでもなし、何を欲するのでもなく、頭の中は「明日帰る」という事以外空っぽです。 5:00

いま 8:20、外はもう、とうに暗く、我等男共二人は、歌集を始めからめくって、唄っています。小泉は若くさすがに元気で、今もやっていますが、吾輩は喉が痛くなって、日記に向かっています。今夜も疲れて眠そうで、抱き合いも喧嘩も、しそうな感じです。明日はいよいよ 20 日振りです。20 日間という随分長いようですが、今考えるとあつという間に過ぎ、今残ったものと言えば、「当分の間、山に行きたくない」という事ぐらいです。ともかく疲れしました。上級生の居ない我等パーティは、雨の夜など、眠れませんでした。一体、明日はどうしようと相談する人も居ないで、一人で悩んだ事もありました。食事の支度があまりにも遅く、怒った事もありますし、風呂に行ったまま、女子 3 人が 11:30 になってやっと帰ってきたときなど、手を挙げそうにもなりました。いろいろありました。田代山の広大な湿原、伸びやかな会津駒、いろいろな思い出は自然に美化されて、いつまでも美しいものとして、心の中に残るに違いありません。山小屋に帰ってきて、最初の 3 日間は戦争でした。40 数名という、未だかつて無い大人数に押され、山小屋もビックリしたでしょう。皆が帰った 6 日以降、いつもの山小屋になって、しみじみとみんなと語り合っただけ。8/8 に女の子が帰ったときは、本当に寂しくなりました。昨日は小泉と俺以外、皆帰ってしまいました。人間の別れて寂しいですね。

明日は我等も帰ります。山小屋は人が居なくなってホッとするでしょう。それから昨年比して充分使いよくなったことは確かです。次に小屋に来る人は、佐藤智恵子さんだと思いますけど、智恵子さん、ガスは元栓を締めてあるので、外の栓を開けてからプロパンを使ってください。戸隠に抜けるとか。黒姫と戸隠の分岐までのコースタイムを下に書いておきます。

小屋 6:07- (トラック) 6:32 ダム-7:07-12R 1 (地図の分岐)-7:45-8:00R 2 (沢)-9:03-17R 3 (沢)-9:45 分岐 R 2 で時間が多いのは「渡渉」の為に、ここは靴を脱いだ方が良いでしょう。流れは少ないので流されることはありません。R 3 の沢は、小さく、地図には無いと思います。サンショウウオが泳いでいて、とてもきれいです。道はしっかりしていますが、湿原となっている所が多く、水芭蕉の葉の上をズズタ行けば、沈むことはないです。お気をつけて。

山小屋委員長、こんな名のため、私の大切な青春の 1 年を費やしてしまった。ワングル=山小屋、そんな 1 年でもありました。悔いは残っていません。ただだももっと多くの人々が小屋を利用してくれればと思っ

ております。人間同士の本当の結びつきの場、本当の会話の出来る場所になればと思っています。来春には電気も入ると聞いております。もっともっと便利にして、もっともっと多くの人が利用できれば嬉しいです。愛、恋、本当に俺は恋いこがれていた。今の俺は、ひたすら見向きもせず他に何かをしたい、そんな気がしている。勉強かも、他の趣味かも知れない。ともかく、私は疲れた人間なんです。再び燃えたい。傷ついてもいい、そんな気がする。傷ついたら、又山小屋に来よう。帰ったら頑張らなくっちゃ、全てのことに誠意を尽くしたい。「ガンバラナクッチャ、ガンバラナクッチャー」今は「イジケヒマワリ」です。

3年13期 竹村昇

人間、する事が無くなると、寝る、食う、歌う、書く、ぼけ一つとする、ぐらいしか無いようです。その為に、このノートは驚異的なスピードで消費(?)されていきます。私めなどは、書くキッカケを失ってしまうぐらいです。もっとも、こうして さて書こうと思っても何も書く事もないのですが。明日帰ります、みんなも考えているように帰ったら何をしようかと考えています。歌にも飽きました。虫を殺しながら火葬しています(ローソクで)。日常性への埋没を拒否しよう。思っています、でもこうしている日々が長ければ、それが日常となるのでは…。僕は単純で空っぽの人間なのです。ところがこのノートに書いてある事は立派なことばかり、影響されて難しい事を書き始めました。止めます。あまり背伸びしたくないから。今、竹村さんがお茶を沸かしに行きました。窓から半分雲の隠れた月がとってもきれいです。明日は家へ帰る夜、何を考えて…。竹村さん「プリンが余っていたナ」オレ「あっ、作ろう」と言って必然的に中断。プリン大成功の可能性大。紅茶も大成功! 塩もみキュウリも大成功(竹村様ごとそうさまです)、プリンがもうすぐ固まる、固まる。オレ「ハエが居るぞ」と言いながらつぶそうとする。竹村さん「かわいそうに」と言いながら、ローソクで焼き殺す。しかし、どこかにアリの巣が在るらしい。アリがのさばっている。字を忘れたなア、勉強しなくっちゃ。

「蟻が小屋の中を歩(アリ) いています」

1年15期小泉一夫

昭和 46 年 8 月 11 日 (水)晴 起床 8:30

慌ただしく食事をして、後片づけをしています。今後、小屋を使う人、井戸の水はきれいですから使えます。ネズミは出しましたからご安心下さい。後 30 分で食器を洗いパッキングをして出発しなければならぬので、日記を書いている暇がありません。(でも書

いているね?)

10:20 小屋を出る。又来る日まで…また待っていてくれるでしょう。 8/11 現在、食糧は食べられます。お世話になりました。サヨナラ、サヨナラ

3年13期 竹村昇

昭和46年8月13日(金)

(竹村さんに) 戸隠と黒姫のコースタイム書いておいて下さってありがとう。残念なことに今回は、妙高に登るだけにする事にしました。またそのうち来るつもりです。三本木でバスを降り、見覚えのある脇道を入ると、懐かしいこの山小屋の赤い屋根が見えました。今はすっかりワンゲルと縁が切れてしまったような感じがしておりましたのに、何とも表しようのない懐かしさがこみ上げてきました。小屋は非常に良く整備整頓されています。ここまでは苦労があった事でしょう。ご苦労様でした。同行の二人の女性はもうシュラフに入って寝ているようです。一人はヤセの大食いで、明日からの食糧が思いやられます。でもとってもいい人なんです。何故こんなに気が合うのか。

(いや、気が合うなんて思っているのは、私だけかも、彼女は仕方なくつき合っているのかもね。)共に口が悪くて大食いで、面倒くさがりやで、チョッピリオッチョコチョコイで、そしてなかなか彼が見つからないの。相思相愛は難しいのね。あっそう、後の一人は一見おとなしい感じの人なの。彼女、会社で机を並べて、同じプロジェクトを研究(?)しているの。とても正確、几帳面な人で、コンピュータープログラムを一回で通す事が出来る人なんです。私はいつも彼女にプログラマーを探してもらっているんですよ。私が嘆くと「神経質な人より、佐藤さんみたいな人の方が、つき合いやすい」とか何とか言って慰めてくれるの。3人とも一見ブスみただけで、よく見るとなかなかの美人なのよ。まっそのうち(何年後になることやら)、素敵な旦那様と可愛い子供とこの山小屋を訪れる事でも夢見にて、今夜は寝ることにしましょう。おやすみなさい。

(追) 友達がローソク立てを焦がしてしまいました。ゴメンナサイ。

OB10期 佐藤智恵子

昭和46年8月20日(金)

金曜日、昨日は木曜日、何だと思ふ？わかる？「少年サンデー」に「少年マガジン」。二つとも手に入らなかったのです。クソー田舎メ！我々二人は絶望して山小屋にやってきました。ここに居ては あしたのジョーがどうなったか分からないのです。

上野 2040⇒津幡 0544⇒珠洲 1027⇒津幡⇒直江津
そして妙高高原まで戻ってきたのは、真夜中の2時ごろ。要するに、もうどうでもよくなったのだから。私は、只人が喜んでくれるような事だけを話していれば良いのです。その時私がどんなに虚しい気持ちで居ようと、それはそれで要するに、どうでもよくなったのだから、その様にしていけば幸せなのかもしれません。間違っているのは私の方であって欲しい。それもどうでも良いのです。大分時間が経ちました。今、私と左トは晩飯を食い終わったところです。山小屋日記を見て感じたのですが、みんながこれだけ沢山書くと、何か目立つものがあつた方が良いのでは・・・そのせいか、大分”絵”が多くなってきたようです。そこで私も、今ウィスキーを飲んでいるのですが、今朝釣ってきた鱒(マス)は二匹で、大きい方はナベに、小さい方は塩焼といった話をするのに、こんな風に 絵を描いてみました。

今日はオスが釣れてしまいましたが、明日は是非、卵の入っているメスを釣りたいものです。みなさん、何か自分のマークを持っている様なので、私もここで自分のマークを決めたいと思います。

どうも旨く描けなかった。別に未だ酔ってはいない。(ウメバチマーク) 私は猫が好きなのです。

いつだったか小説を読んでいたら、ネコの話が出ていました。始めは耳の話。これを 切符切り でパチンと切ってみたいというのです。そう言われてみると、私にも潜在的にその様な欲求が在ったように思われてくるのです。研究熱心な作者は、予備的実験をいくつか行います。まずこれをつまんで、引っ張ってみます。これは知らん顔だそうで、ウサギと同じようにネコも耳を掴んで持ち上げる事が出来るとか。次に作者は、これをつねってみます。そう、ツネツネしてみたのです。するとネコは、これでも未だ感じない。今度は爪を立ててつねってみると、飛び上がって騒いだという事でした。これでお終いと言うわけではありません。探求心に燃える作者は、今度はとうとうネコの耳をかじってみたのです。するとこの時も、爪でつねった時と同じように大騒ぎになったということです。細かい柔らかい毛が生えていて、触るとチョッピリ冷たくて、何だか訳の分からないネコの耳を貴方も厚紙に挟んで切符切でパチンとやってみたくはありませんか。ということなのです。作者は何か夢のようなものを見ていました。知り合いのA子さんを訪ねるとお化粧をして

いるところでした。でも何か変なものでお化粧をしているのです。そこで、何を使ってやっているのかと聞くと、「あ、これ、ネコの足。最近ヨーロッパ(?)で流行っているの。だから私も作ってもらったの。」そう言えば、いつも擦り寄ってくる、彼女のネコの姿が、この日に限って見当たりません。ヒヤッと冷たくて、プワプワと柔らかいネコの足というの、また非常に興味深く思えるのです。

4年12期山川隆

上野を18日の夜行で発って(見送り 上原さん(9)、山ノ井(14):山ノ井の差入れのサンドイッチは旨かった)、山川(12)、榎本(12)と3人で川端(14)の一周忌に行った。なにしろ能登の先端だけあって遠い。いい加減乗り飽きてもまだ着かずウンザリした頃に珠洲に着いた。川端さんの家では歓待してくれ申し訳ないようだ。川端の墓は丘の上にあり、真新しく涙を誘う。「一日泊まっていきなさい」という川端さんの申し出を辞退し、山ノ井が来るかも知れないのでと思い、夜行で妙高高原へ。富山の鱒の押し寿司はチョット高い(300円)が、ボリュームがあつてなかなか旨い。妙高高原には1時半(午前)着いて、第2待合室のベンチで寝る。動いてない所で寝るのは2日振りなのでグッスリ寝られた。朝来るかなと思っていた山ノ井は来ず、山川と二人ということになり、Homo Homo 7(古いねー)と相成った。岡田さんの所に荷物を置き、買い出しをし(間が悪いことに農協はお盆の代休で休みだったが)、釣り堀に出掛けた。釣り堀までの道端にもけっこういろいろな花が咲いていた。釣り堀では山川が大きいのを、俺が小さい白いヤツを釣った。二人で700gで420円也であった。とにかく小さいのでも釣れたので竹村よりはよほどマシというところだ。岡田さんの所でお茶を御馳走になり、トウモロコシを頂き、バスの時間ぎりぎりに出たのだが、山川が赤いセーターを忘れてたりして乗り遅れてしまい、バス停で1時間半待つことになってしまった。バスの車掌はかなりひどいので、小屋の側で止めてくれるどころか、途中で居眠りをし、三本木を行き過ぎて、山川に言われてやっと止めるという具合であった。二年半振り、二度目の、そして雪のない季節では初めての(ナンセンス自己批判しなくっちゃ)山小屋は、この前来たときに較べると見違えるほど立派になっていた。夕飯は今日釣ってきた虹鱒を食った。なかなか美味で、山川氏がこれから数日、鱒料理をいろいろと食わせてくれるそうだ。食後は余ったおかずを肴に山川とウィスキーをやりつつ山小屋日記を読み返している。ショートピースが旨い。思えば初めてタバコを喫ったのが一年ほど前の川端の葬式へ行く車中で、山川にかなり強引に、やはりショートピースを勧められた時であった。古い山小屋日記を読んでいるとなかなか面白い。1970年の

分まで読んだところで、いい加減疲れたので、これを書いている。山川はもう寝てしまっている。俺もそろそろ寝ようかと思っている。夜行夜行でいい加減疲れてしまった。外は曇っていて、星が見えず残念だ。室温は17℃、4時頃から変化無し。ではお休み。

昭和46年8月20日 22:05 左藤記
ps 山川の魚の絵には大分誇張があります。ランプを消そうとしたら中に蛾が入り込んでしまった。ヘッドランプの光の中で眼だけが妖しく光っている。

4年12期 左藤清

昭和46年8月21日(土)

喧嘩をして出てきた。卒業のこと、就職の事、将来の事など何も話してなかったから、俺の、人への思いやりの無さが、母に判ったからかも知れない。この山小屋には27日まで居るつもりだが、帰るまでにはそうした事共を整理して、9月からは今までの生活を精算して、やり直そうと思っている。つまらぬ事共を書いて、ページを埋めたこととお許し下さい。 9:25

4年12期 左ト 左藤清

昭和46年8月2日(日)

只今午前7時40分。今日が覚めた。夜半には雨が降っていた。これで3日連続して夜中に雨が降った。私は竹村などと違って「晴れ男」の筈なのに…未だ眠いので、もう一眠りする事にする。おやすみ。 K s 左藤(12)

9時10分前に松瀬嬢が一人でやってきた。外はひどいガスだ。彼女は山小屋に寄付するためにわざわざ布団を運んで来てくれた。どうもご苦労様でした。我々も起きだしてとうもろこそを茹でて食べた後、チャーハンなどを作って食べた。今は正午、山川は感心にも勉強を、松瀬嬢はさすがに夜行で疲れたと見えて、持ってきた布団を持ち上げて、2階で寝ている。さて私は何をしていますのでしょうか。 (K s)

現在 7:00pm です。今日の朝珍しく非常な早起きを致しましてですね、上野発 8:24、急行「妙高2号」に乗りました。山小屋に来るのに、昼間来るのも、急行で来るのも初めてであります。杉野沢に着いたら見覚えのある人間が3人ばかり居りまして、まさかこんな所で会おうとは思いませんでした。彼ら(山川、左藤)&彼女(松瀬)は魚を釣ってきたとの事でした。晩飯は塩焼き、うまかった。これから1週間程度、山小屋にいる予定です。暑い横浜から涼しい山小屋で勉強しようと思って来たのです。でも予定としては、一人で山小屋で過ごせると考えていたのが、見事に裏切

られてしまいました。ちょっと残念な気がします。

OB11期 桜井謙一

昭和46年8月22日(日)

さて本日は昼を食べないで、我々3人は12時過ぎ杉野沢まで買い出し兼魚釣りに出掛けた。弱体にも五八木からバスで行った。虹鱒は大型2匹(1.2kg)残念ながらメスは釣れず。杉野沢から釣り堀までの間にはクルミの木が沢山あるが道端で拾ったら二つだけだった。杉野沢の車道に出ると妙高高原からのバスが来、それに桜井さんが乗っていた。せっかく3人で楽しくやろうとしたのに邪魔者(失礼)が入った? しかしそのお陰で買い出しをする物が減り助かった。杉野沢で野菜の種を買い、小屋の裏に畑を作り蒔いた。収穫は10月中旬以降の予定。夕食は虹鱒の塩焼き etc でまたまた旨かった。食後3人でウィスキーなどを飲み(桜井さんは飲めない)、4人で話をしたり、歌を歌ったりした。話は学生運動(68年横国大斗争 etc)とワングルの関連とか、今のワングルの批判 etc であった。今23日午前1時過ぎ、外は深いガスで時折雨が降る。では畑の野菜がうまく育ちますように・・・お休み。

4年12期 左ト 左藤清

山川園に関する説明(図示)

{場所} (図略)

{作物} (図略) 野沢菜、大根

{収穫期} 10月中旬以降 厳守のこと!!

- ・すぐ腐る野菜くずのようなものは、畝と畝の間に肥料として置いて下さい。
- ・大根の葉は決して捨てないように。炒めて食べると非常においしい。
- ・生え方によっては、収穫期以前に間引きをして下さい。
- ・肥料となるものは全て畑に使って下さい。但しやりすぎないように。

以上、よろしく願い致します。

- ・農園主 山川
- ・労働者 左ト
- ・メシ係 松瀬
- ・見てた人 桜井

昭和46年8月23日(月)

夏合宿が妙高の小屋で終わったのは今月の6日。私は急ぎ足で帰って行った。帰りの電車の中で、じっと窓から景色を見ていると、何かどうすることも出来ない涙が私の目から溢れだしてきた。夏合宿の虚しさからであろうか、それとも私自身全ての虚しさからであろ

うか。本当にあの時は悲しかった。そうしてもう一度、この休み中に是非ふらっと来てみたかったのである。家に帰って 10 日間あまり、ポーッと過ごしていたのであるけれど、無性に一人で出掛けたくなくなった、知らないところを一人で歩きたくなった。何か心の落ち着くこの小屋に来たくなった、と思っていたら、山川さんや左藤さんや山ノ井さんが小屋にいると聞いて、寄せて貰う事にした。だけど山ノ井さんは急に行かなくなり、私一人になったのだけれど、一人でぶらりと行きたいと思っていた私、行くことに決め、21 日の上野の夜行で妙高へと発った。私の前の席の人も妙高へ登るとい人で、いろいろ話をした。夜間の大学に通っている時間の許す限り山へ行っているらしく、丹沢山から北アルプス、南アルプス、いろんな山の話聞いた。話を聞いているうちに、私という人間は全てに対して、まだまだ甘いのだと痛切に感じた。こうして大学へ通いク

1年15期松瀬三千代

今日で山小屋に入ってから4日目。今回ほど外に出ないことも珍しい。外はずっとガスりっぱなし。思い出したように時々雨が降る。今夜は数年来私の念願であったコイコクを食べた。昨夜から腹の具合が良くない。しかし、人並み以上に食べている。毎日、予定の半分づつ勉強して、半分だけ満足。

4年12期山川隆

私もマークを作ることにします。右のマーク あまり良くありません。違うマークを考えます。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年8月24日(火)

現在 0:30分 どういう訳か4人とも起きています。今までトランプをしていました。結果は次の通り。(結果省略)

昨日(8月23日の事です)は何と言っても、4人が4人とも起きだしたのが12時、正午なんでございます。おかげで午前0時を過ぎても誰も寝ようなんぞと申しません。この調子では、今日も起きるのはお昼近くになるのではないのでしょうか。外では星が少々輝いています。なんせ、天気はずっとガスりっぱなし、星が見えるだけでもましな方という具合です。私のマークは舵輪のマークです。

OB11期 Ken 桜井謙一

昨日(23日)は、朝食兼昼食(ま、ま、またおいしい

チャーハン)を食べてから、たった一人で杉野沢まで深いガスをつけて出掛けた。竹村養魚場で1kg(600円)の鯉を一匹買い、杉野沢でその他を買戻した。山川氏の作った鯉コクは大変おいしく、まさに連日の夕食は豪華版の一語に尽きる。ほんとにうまかったよー。今、トランプを終わって24日午前1時40分。きしめんを食べて、高尚な話をしている。外は曇ってきて室温は18℃、朝になって晴れば良いのだが、ちょっと望めそうもない。只今 TradeMark の思案中である。

4年12期左ト左藤清

10:40 皆まだ寝ている。外は予想通り曇、時折遠雷が聞こえる。今日来る筈の広沢は未だ来ていない。さっき畑を見てきたところ、根が出始めた。これで10月中旬には、是非とも来なくては。今後、小屋を訪れる人も、面倒をみてやって下さい。

4年12期左ト左藤清

昨日は途中で止めてしまいました。自分のことを書いていて訳がわからなくなり、いやになります。今日は午後3時頃、一人でうっすらとガスのたちこめる唐松林を散歩してきました。冷んやりとするガスが、先日、海で日焼けした身体に気持ちよく、どんどん道に従って歩きました。途中、真っ白い秋の花が咲き乱れ、秋の訪れを早や感じさせてくれました。唐松林を出ると大きな木がありました。登ろうと、一度試みたのですが登れなくて、下に腰をかけて大きな声で、黒姫や野尻湖にまで届くような声で、歌を歌ってきました。私のこんな行為、ふと、下界にいるときの気持ちに戻って考えてみると、単純で自己満足的なものであるようです。でも私の心中にも、素直な、寛大な心があることを改めて知り、何か嬉しくなるのです。今回の山小屋の私は、言葉少なに自分の気の向くままのことをしました。そして、5年生や4年生からワングルのこと、学生運動その他いろいろ話を聞きました。私ももっとも自分なりに考えていかなければならないところが沢山あるようです。私の存在するこのクラブ一つをとっても、今までこのクラブに入ってから私自身とワンダリングという問題から発展してワンダーホーゲルというクラブというものまでも、自分自身に関連させて考えていかねばならないと思いました。今日来ると言っていた広沢さんも来ないし、明日予定通り、北陸線を通って祖母の所に寄って帰ろうと思っています。この2階の片隅で一人ペンを走らせていると心は落ち着きさやかな気分になります。外はますますガスが濃くなり、シトシト雨が降ってきたようです。今日、最後の山小屋の夜を皆で満喫していきたいと思っています。(花の絵) こんな花が一面に咲いていました。真っ白で香りも良い花です。秋の花は良い

ものですね。

1年15期 松瀬三千代

今、昼寝から目が覚めたところ、現在 18:00 頃です。それにしても、良く眠れるもんだ、自分でも感心したくなりますよ。今日も昨日と同じく正午に起き出して朝飯？のチャーハンを食べ、その後しばらく読書なぞして、3時頃、腹が減ったと、納豆でもって再び飯を食いまして、お腹が一杯になったのでもって眠くなり、今まで昼寝をしておりました。山川君は頑張ってる勉強をしており、左藤君は読書を、松瀬嬢は今、何か書いておられます。私はこうして、くだらないことは山小屋日記に書いているのです。外はガスっていて、雨がしとしと、実に静かなものです。聞こえるものと言えば、時々車の走る音と、本の頁をめくる音、鉛筆の音、雨がポトポトという音だけです。全く静かなものです。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年8月25日(水)

只今8月25日午前0時。我々4人は、今から酒盛りを始めました。おつまみは、フレンチフライに、イカの缶詰。ホワイトリカーをカクテルにして飲んでいきます。まず一杯目は<ピンクナイト>。作り方 焼酎+ストロベリーソーダラップ おいしいと言って松瀬がグビグビ飲んでいきます。甘口で女性に喜ばれるカクテルです。次は<白夜>であります。これは甘口でもなく、少々辛口に属しますでしょうか。作り方 Milk サワー小さじ2杯+ホワイトリカー100cc (注) Milk サワーをよく溶かすこと。お次は<なえなオレンジ>であります。口当たりが良く女性に喜ばれる味であります。たいへんおいしいのです。作り方 オレンジジュースの素小さじ2杯半+ホワイトリカー100cc 4杯目も<なえなオレンジ>、これが一番評判が良いようです。オイチイオイチイ、松瀬曰く「ジュースよりずっとおいしい。ああ、又明日起きるの12時ダワー。」

4年12期 山川隆

午前2時半、外はガス、落葉松に木雨(抄) (多分木雨と言ったと思うがガスが木の葉にまつわりつき、滴が落ちることを言う) が下生えに落ちる音がするのみだ。ホワイトリカーベースのカクテルを4杯飲み、かなりいい気持ちになっている。さっきはマンガ論などを闘わしたが、ちょっと懐古趣味の感じもする。俺達も年を取ったのかなー。

4年12期 左ト 左藤清

静かな夜更け、山川はもう眠りについたようだ。山

小屋日記を読み返すにつれ、皆、書く人が自分の気持ちに素直になって書いているように思われる。大自然の懐に抱かれると、人間は素直になるのだろうか。自分の卑小さを感じて素直になるのだろうか。こうした素直な自分を、下界にいても保ち続けたいと思う。そろそろ寝よう。おやすみ。

4年12期 左藤清

午前9時、外は曇り。時折ガスが去来する。早朝は陽ささしていたのに、全くイヤになってしまう。それでも時々山鳩がククルククパロマとかなんとか鳴いている。畑の野菜も芽が沢山出て来て楽しみだ。しかしなえな小屋より少し三本木寄りの方で、朝っぱらから山梨学院大か何かのチェンソーの音がやかましい。ムードぶち壊しだ。

4年12期 左藤清

午前11時20分、 みんなそろそろ起きだしてきました。山小屋に来てどうやら生活時間が5、6時間ずれてしまったようです。おかげで、1日の時間が経つのが早いこと。今日も、広沢も山ノ井も来ませんでした。この調子だと多分、来ないのではないかと思います。それにしても1日くらいカラッと晴れた天気にならないかな。帰るまでお願いだから、1日でもいいから晴れてほしい。

OB11期 Ken 桜井謙一

只今12時20分前。松瀬がチャーハンに入れる野菜を刻んでいる。農園の畑を見に行ったら、もうできてきた芽が緑色に変わってきた。今日帰る予定であったが、もう1日延ばすことにする。・・・<時間の経過>・・・この間メシを食べ杉野沢に買い物に行ってくる・・・これから晩飯を作るところ。天ぷら油を大量に買って来た。山川園に柵を作った。今日はいろいろとよくやった。

4年12期 山川隆

ps 今日帰る予定であった松瀬は私の魅力に参ってしまい、もう1日延ばすことにした。

4年12期 山川隆

←これはマチガイです。私は声を大にして叫びます。山川の魅力ではなく私の魅力によって1日延ばしたのです。ジャジャジャジャー。何故ならば、本日山川と左藤が杉野沢に買い出しに行っている間、私と松瀬嬢は笹ヶ峰まで、二人で散歩としゃれ込んだのでございませぬ。この事を考えてみましても、山川氏の魅力で1日延ばしたなどと言うのは、彼の自己満足に過ぎないということが明らかなのです。笹ヶ峰はさすがに人が全然居なくて、閑散として静かでした。でもガスっていて何にも見えず、帰りなど視界10mというところ、周りは白いミルクのようなガスが身体にまとわり

ついておりました。しかし、しかし、小屋に入ってから喰っちゃ寝の連続で、身体がおかしくなっておりまして、もの笹ヶ峰まで歩くのにフウフウいってしまっ、俺も年を取ったとつくづく感じてしまいました。

OB11期 Ken 桜井謙一

只今 19:30 夕食を食べ終わり、松瀬嬢が後かたづけをしてくれています。今日に夕食はコンビーフのたっぷり入った野菜炒めとリンゴのたくさん入った野菜サラダ、そしてジャガイモのみそ汁でした。野菜サラダには本格的なドレッシングをかけて食べました。野菜炒めは量が多すぎたため少し残ってしまいました。皆満腹です。しかし、これからまたフレンチフライドポテトとオニオンリングの夜食が出るのです。今晚もまた、明日の3時頃まで起きている事でしょう。

4年12期 左藤清

この山小屋は、いかがわしい魅力を持っており、私が今日帰るのを引き止めてしまいました。なんと私を困らす私の恋人でしょう。小屋の周りには真っ白な、黄色、ピンクの色とりどりの花が咲き乱れ、唐松林にはうっすらとガスが立ちこめ、どこからともなく秋虫の声が聞こえてきます。今日外で写生（結局はしなかったのですけれど）などしていたら、こんな素敵な雰囲気はどうしても私をして帰らしめなかったのです。だけど、明日はこの素敵な恋人と是非、別れを告げなければ。もうすぐ長かった夏休みも終わります。今年の夏休みは自分気まま（夏合宿を除いて）なことをしました。充実感があります。しかし夏合宿、山小屋、一人歩きをして、私の内面に何か進歩があったでしょうか、これら経験を通して少しずつでも私という人間がしっかりしていけば良いと思っっているのですけれど、そして、もっともっと、自分自身を夢中にしてくれる何か欲しいのです。

1年15期 michiyo☆松瀬三千代

昭和46年8月26日（木）

遂に26日に突入した。今、午前0時20分。今まで長いラミーの勝負をし少々疲れ、夜食の準備に取りかかっている。ラミーの結果は、1位山川氏560点、2位松瀬嬢385点、3位左藤225点、4位桜井さん50点、結局第15ラウンドでけりが付いた。松瀬嬢は9ラウンドに勝利まで後20点まで行ったが、左藤の妨害にあって一点を取り、以後混戦となり13ラウンドで山川が飛び出して勝利を握ったものである。尚、桜井さんの結果が山小屋日記を見ると、2位が一度で、後全部四位となっているが、昨日どういう訳か、一位を取ったことを、桜井さんの名誉のために付け加えて

おく。これから夜食が出ます。おいしそうなパンにフレンチフライドポテトそして玉葱を輪切りにして油で揚げたオニオンリング、そして更にはペミカン風野菜炒めの冷えたものが出るのですよ。山小屋の生活は優雅だなー。

4年12期 左藤清

今回は川端の一周忌の法事のついでに山小屋に寄ったのだが、ついフラフラと、足かけ一週間もの長居をすることになってしまった。一日として晴れることは無く、また、朝まともに起きた事もなく、外に散歩に行ったこともなく、要するに食べては寝てばかりいたのだが、つくづく、山小屋が暮らし良くなったと感じる。一年の時の10月の試験休みに、この小屋の作業にやってきた時のことを思い出す。屋根も外張りもできたから泊まれるだろうと思ってやって来たら、骨組みの上に屋根が一部張ってあるだけで、未だ床も出来ていなかった。夜は早稲田の山小屋に一泊と造林小屋に一泊した。あれ以来いろいろと手が加えられて、山小屋は、もうあの時には考えられなかったほど住み良くなっている。昔、家で使っていたものを幾つか山小屋に持ってきてあるので、そんなものを見ていると、ふと、妙な錯覚に陥る。山小屋が便利になるのは良いけれど、電気が引けるのはあまり気が進まない。やはりこうしてローソクの光で、日記を書いている方がいい。実を申しますと、今回農園を作りましたが、これは初めてのことでないのです。去年の4月にやはり山川園を作ってみたのです。その時はカボチャがいくつもいくつも穫れる筈でした。ところがその後の手入れが悪かったせいか、…ともかく8月まで山小屋に来られなかったのです…芽が出たのかどうかも判らず、跡形もなく消えていました。今回はちゃんと芽が出てきたのを確認しました。小さな緑色の芽がポチポチと一面に生えてきたのです。それが実に可愛らしいのです。出来ることなら、ずっと山小屋に泊まって大きくなるまで毎日毎日見ていたい。そんな気がしてくるのです。もうじき4時になります。そうしたら外は、じき明るくなることでしょう。そして芽は、またもう少し大きくなっているでしょう。

4年12期 山川隆

今日(8/26)こそ早く起きたいと思って、今日の朝4時半頃まで起きて頑張っていました。しかし寝てしまい、7時頃私は一人起きだし、私の一番好きな唐松林を出たところの、大きな木の所に行き、今日は木の一番先端の方まで登ってきました（ご安心を、木は無事折れませんでした）。少しガスっていたのですけれど、私の登頂を祝ってくれて、黒姫山や野尻湖を、清々しい姿を現してくれました。そして例によって又、大きな声で立原道造の詩を朗読し、お腹から一杯の声を

して歌ってきました。本当に今回の私の山小屋、2階の片隅でペンを走らせたり、木に登って叫んだり、夜ボサッとロウソクを見つめ、屋根を見つめたり、こんな私の連続でした。今日、もう帰ります。又いつか寄せてもらおうと思っています。さようなら。

1年15期 michiyo☆松瀬三千代

それではこれで帰ります。またすぐに、化学肥料を持ってやって来るつもりです。井戸の水が少なくなっているのが心配。バス道の水場も枯れてしまっています。では、さようなら。

4年12期 山川隆

山川、松瀬、左藤、3人帰ってしまって、今山小屋にいるのは俺一人、何となく寂しい感じがする。山小屋に入ってから今日で5日目、日が経つの早いもので、まだ小屋に来て2、3日きり経っていないような気がして仕方がない。上を書いたのは17:00頃、3人を杉野沢へ見送って小屋に帰ったときに書いたのです。今19:08、晩飯を食べ終わってお茶を飲みながら書いています。もっとも晩飯と言っても作るのがメンドウになり、インスタントうどんで済ませてしまいました。山川も書いているけれど、山小屋に電気入れるのはやめようよ。一見便利になりそうだけれど、みんなでローソクの光を囲んでボソボソとだべるムードが壊されてしまう気がしてならない。今のワングルに於いて、仲間とボソボソと語り合う場は山小屋だけと言う気がするんだよ。でもこんな事は非常に悲しいことだと思うんだ。これは、ワングルの話になるからこれで止めるけど、山小屋に電気は付けてはだめだ！絶対に、山小屋に電気を入れる事を粉碎！！「山小屋に電気を引くのは絶対反対！」山小屋を愛する仲間達、山小屋に電気を引くのに反対する「反対同盟」を作ろうではないか。話題を変えまして、3人が帰ってしまったので、私の生活も通常の時間帯に戻るでしょう。なんせ、今までは起きるのが正午で寝るのが午前3、4時という生活を続けていたのです。ペースが狂ってしまって、読もうと思って持ってきた本、まだほんのチョッピリしか読んでないし、勉強なんぞ未だノートを開いたまんま、1ページも進んでいない状態なんです。もっとも明日からちゃんと朝起きて、勉強するかどうかは疑問ですけど。でも、別に構わないんです。山小屋に来た目的は、勉強する為ではないのですから。

OB11期 Ken 桜井謙一

またまた話を変えますが、私が小屋へ来る前に聞いた話では、広沢と山ノ井が小屋に後から入ると言うことを聞いて山小屋に来たのです。そして山川、左藤、松瀬3名からその確認をとったのです。でもでも、今日までお二人さんとも現れません。今日くるのかなと思

って待っていたのに来ないということは、何となくすっぱかさされたような気がして、あまり良くないものです。

またまた話を変えまして、よく話を変えるけど我慢してくださいな。私のシンボルマーク、船の舵輪を図案化したものです。(図入り) これを見てたら海と船の話がしたくなりました。私は海が大好きであります。尤も海水浴等と言うことではありません。あの青い広大な海原がたまらなく好きなのです。海は生きているのです。海岸に立って海を眺めていると何か話しかけて居るような気がするのです。あの海岸に打ち寄せる波、永久に続くのに一回として同じ調子では押し寄せてこない波、全く不思議と言うほかありません。又、海の色、その日その日によって、変わる海の色、これが又実にいいんだなあ。私は南の海をエメラルドグリーン色の海、を1年の春休みの時に見ました。今でもあの色は憶えています。海の色がエメラルドグリーンになるとは、自分の目を疑うくらい鮮やかな色なのです。おまけに太陽の南国らしく燦々と輝き、それと海の色との調和が実によくとれているのです。又南の海とは別に、台風の前海、これも素晴らしいものです。空はどんより曇り、今にも雨が降り出しそうなもとの、海の色も鉛色になり、猛り狂ったような波が押し寄せてきます。平和な晴れた日の海の仮面を脱ぎ捨てて怒り狂った顔を見せます。この、雨の降る前の一触即発といった雰囲気は実にいいのです。全く持って、海という奴は実にいろいろの仮面を持っているらしくて、その時その場所に依じて、実に様々な様子を見せてくれます。でも、海を眺めるのも最も適した所は船の上です。周りは全て海、遠く水平線の方に他の船が1隻ポツンと居たりして、海って言うのは本当に広いんだなあと実感として感じさせてくれます。そして波も、海岸での波のようにチャチなものではなく、ずっとゆったりと、大きな波があるものです。全く波というのは不思議なものです。でも、海に波が無くなってしまったらば、これは大変なことです。海の魅力は半減(いやそれ以上かも)してしまうからです。一度船に乗ってご覧なさい。それも太洋を航海するやつに、素晴らしいから。この続きは又明日書こうかな、今日はこの辺で止めておきます。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年8月27日(金)

7時5分現在朝食を準備中です。今日は初めて朝食を食べることになります。今までは何と言っても起きるのがお昼だったので、朝食ではなく昼食を、起きて食べていたのです。11時、今おやつを食べているのです。一人で実に優雅な生活を送っています。ローソクの再生、九分通り成功、バンザイ。☆山小屋委員諸氏及

び山小屋委員長（竹村）をお願いいたします。山小屋に常にローソクを置いて欲しい。ランプだけではやっぱり暗いもの、2, 3ダース置いておこうよ。そんなに高価なものでもないんだし。午前中ブラブラ過していますが、午後からは小屋の周りの溝の破損個所の修理と、お釜を置く台を作ろうと思っています。今14時30分、溝の修理を終わったところです。仕事をしていて気が付いたこと。小屋の周りが余りにも汚い。木の屑が散らばっていたり、針金が投げ捨ててあったり、もう少しきれいにしたい。掃除をしようと思ったけれど箒が無い。外を掃く竹箒（後注：小キジ場にあるのダー・・・竹村）2, 3本小屋に用意して置かなくてはダメだ。皆さん、小屋の周りもキレイに使いましょう。山川の聞いてきた所によると山梨学院大が買ったという土地、今は山梨の土地ブローカーの手に渡っているとのこと。藪の苧り払いをしているが、これからどうなるのか心配だ。

只今19時15分、晩飯を食べ終わりお茶を飲み飲み、昨日と同じくこの日記に向かっております。今日は仕事を致しました。頑張ったのでございます。小屋の周りの溝、合宿の時の小屋整備で作ったのですが、どうもちゃんとしたところと手抜きをした所があるようで、手抜き工事の所は見事に壊れていました。私メが今回ちゃんと修理致しておきました。又、溝にやはり土が流れ込んでしまうようですね。時々掘って置いた方がよさそうです。又、お釜の台を作りました。今在る古い方も私が作ったものですが、古い方は大分いい加減に作ったのであまりかっこよくありません。しかし、しかしですよ、今回の台は何とまあ素晴らしいのでしょうか。我ながらほれほれいたします。尤も少々寸法を間違えてしまい小さくなってしまいました。けれども使用には差し支えはありません。午前中はローソクの再生、なかなか難しく、溶けた蠟が流れ出して苦労しました。これは、使用した後のロールの巻き芯を使ったのです。でも、旨くできました。使うのが勿体ない位、従って今晚は使っていません。

OB11期 Ken 桜井謙一

では、昨日の続きの海の話を書きます。その前に、今日は私メが小屋に来てから初めて一日晴れていました。と言っても合宿の時みたいに快晴ではなく、時々曇ってしまいましたが、それにしてもガスるってことはなく、良い日でした。おかげで布団も干せました。でも夜になって星がよく見えるかと思いきや、全然見えません。空は曇っているのでしょうか。チクショーメ。前言、大幅に訂正致します。只今小キジを撃ちに外に出てみたら、あらまあ、星が出ているではありませんか、なんせ、見えないと書いたのは小屋の中でガラス越しに空を見たから、見えなかったのです。しかし星が見えると言っても、素晴らしくよく見える訳ではあ

りません、まあ見える、と言う程度なのです。さて、いよいよ本題に入りましょう。昨日は僕が、海が大好きであると書きました。海のいろいろな表情が好きだと書きました。海の好きな僕が何故山に登るのでしょうか。それは山の素晴らしさと海の素晴らしさが、僕にとって異なっているからなのです。海は確かに素晴らしいんですが、しかし、気軽に中に入っていく事はできません。海で泳ぐのは、それはもう、泳ぐと言う行為自体に目的があり、海と一体になって遊ぶと言うことは、かけ離れてしまいます。又、海で潜ると言うことも出来ますが、これもやはり、海の中の世界に入っていくことで、海とは又別なもののように思えます。ヨットはどうかと言いますと、僕には解りません。なんせヨットに乗ったことがありませんから、でもヨットに乗る友達を見ていると、ヨット気狂々と思うような奴が居ますから、それだけの魅力を持って居るのでしょうか。僕もヨットなら海のの魅力が感じられるのではないかと思います。これに対して山というものは眺めているだけでは全く面白くありません。何と言うことは無いのです。しかし、山に登ると言うという楽しみがあります。歩くことにより、山に登ることにより、山つまり自然に自分を同化させる事ができるのです。登ることにより、自分の生命感を充実させ、自然を肌で感じることにより、コセコセした気持ちを捨て去り、おおらかな、広い心を持てるようになります。何と言って良いか、どうも言葉が見つかりません。失語症なのかも。でもこのような気持ちは分かって貰えると思えます。だから、僕は山の頂上を踏まなかったって構わないのです。ただ、山の中を歩くことが出来れば、だから、人の多い山は嫌いなのです。高くなくて良いんです。低い山でも構わないのです。それぞれの山にはそれぞれの良い面があります。季節によってもいろいろと違います。その、それぞれの良さを味わうために山に登るのです。でも、この山の良さを味わうのには少人数（多くて5, 6人）で山に登るのが最良です。人数が多くなればなるほど、山の良さを感ずる事が少なくなってしまうみたいです。だから、一年生、二年生達よ、皆さん、pwに行きなさい。無理してでも、出来るだけ多くのpwに行きなさい。それもなるべくなら、少人数のpwに。山の素晴らしさ、山の良さが本当に良く味わえると思えます。そして、人間がよく分かります。少人数で行けば、そのPartyの人間の、良さも欠点もよく分かると思えます。人間観察の絶好の機会です。でも、これも、その人の一面を現しているだけだ、と言うことをわすれずに。毎日毎日、よくまあ、この日記を書くものです。でもね、一人で居ると他にやる事が無いので、思い付くままに筆を進めてしまうのです。もう21時になろうとしています。そろそろ寝ます。お休みなさい。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年8月28日(土)

只今16時30分、重大なことが判明してしまいました。今、井戸へ食器洗い(昼食の)に出掛けたら、井戸の水が枯れてしまっている。もう20cm位しか無くて、バケツを入れると水が濁ってしまう。とても飲めたものではない。しからずんば、バス道の水場はどうかと思いついてみるに、これも見事に枯れている。チョロチョロどころか、水一滴出てやしない。ああ困った。どうしよう。…現在在る水では、明日一日もたせるのがやっつ。五八木迄水を汲みに行く気はどうてい無いし、仕方がないから、明日帰ろうかな。明日になったら考えよう。今日は考えるのをやめた。只今、18時15分、外はガスっている。薄暗くなってきたけれど、晩飯作る気がしない。メンドウなのだ。一人で居ると、実に実にメシを作るのがメンドウ。でも、不思議なことに朝飯だけはちゃんと作っている、どういうわけでしょうねエ、これは。只今19時50分、今度はどういう訳か、鉛筆で書いてみたくなった。今まで私はどちらかという、この山小屋日記に殆ど何も書いていません。書く気があっても、何も頭に浮かばなかったのです。しかし今回は、どういう訳か、一人で居るせいでしょ、書きたくて書きたくて、仕方がないのです。この山小屋日記は、この小屋を使用した人達との交流の場みたいなものだなあ、と言う気がします。日記を読んでいると、会ったこともないOBの人達も知っている人のような親近感が生まれてきます。同じクラブの現役との間にも、おや あいつが・・・と思うような事が書いてあります。この日記は本当に、人と人との交流の場となっているのだなあ、とつくづく感じます。僕も、もうチョット以前、来た時に書いておいたらなあ、今思っているところです。只今20時45分、先ほどより1時間経過いたしました。今これを書いている所は布団の上で、腹這いになりながら書いています。なんてったって、今回シュラブ待って来てないモンネ。大体、今回小屋にやってきた、私、山川氏、佐藤氏、松瀬嬢4名とも全員、シュラブなんて野暮なもの、持ってこなかったでがんです。でも4名ならば全員布団に寝られます。これが5名になるとちよいと無理に近いことですよ。布団、上下そろったのが3組ちゃんとあります。でも、布団、下に置いておくと、湿気を吸ってかびてしまう可能性大であります。現にかびが生えてしまっている布団がありますから、やっぱり2階に置いといた方が良くと思います。

OB11期 Ken 桜井謙一

今、一昨日と昨日書いた事を読み直してみました。随分書き足りない所があります。抜けている事だらけと言う感じ。僕の感じていること、思っていることを伝

えるのには(それも、正確に ですよ)ととてもとても半分くらいしか書いてないみたいな気がします。でも、書き足そうなんぞとは全然考えてないのです。読んだ人は、後の半分は自分で考えてくださいな、なんて、ひどい無責任だと思えますけれど。考えてみるに、明日は日曜日、と言うことは、私が横浜を出てきたのが、やはり日曜日、と言うことは、既に1週間が過ぎ去ろうとしていると言うことであります。私は何をしにこの山小屋にやって来たのでしょうか。実に、山小屋に来ようと思ったのは、夏合宿が終わり横浜に帰った後で、そうしようと思ったのです。合宿が終わり、小屋から帰った後では、どうにもならない寂しさと悲しさでいっぱいだったのです。その原因はいろいろとあるんですけど、一つは、とにかく僕の属していたサークルが考えても見ないほどひどい状態なので驚くやらビックリするやら、その後で悲しくなっていました。一体全体、どう考えているのでしょうか。サークルの中の人と人との繋がりがプツンと断ち切られてしまっているみたいで、一人一人が、バラバラと、唯漫然と集まっているという感じなのです。もっと、サークルの中の人と人との繋がりを大切に、大事にしなければならぬのに、人を信じる事は大切なことなのに、僕らがサークルに属しているということは、僕に言わせれば、仲間と一緒にいたいという気がするからこそ、ではないだろうか。人間を、本当の人間を知ること、こんな事が出来ると思うんだ。僕にしても4年間かかって、4年もかかって、たった一人の人間にしても、その人の全てを知り尽くしたなどとは言えない。けれども何分の一かは知ったと思う。面白いんだ、人を知ると言うことは、その人の全てとはいかなくとも、知ると言うことは面白い事なのです。でも、こういう事が出来るのは、その人から信じられ、その人を信じることによって、裸の人間が現れてくるのだと思うんだ。今みたいにお互いが殻を被っているのでは何にも生まれてきやしない。ワングルなんて、人と人との結びつきを取ってしまったら何にも残らない、それ以外の目的なんてありやしないのだから、人と人との繋がり、大事にしなければいけないと思う。これはワングルに対して感じたこと、もう一つの原因は、非常に個人的な事なのです。全くこんな所に書けないような個人的なことで寂しくて仕方がなかったのです。でも山小屋に来る前はかなりな程度、直っていたのです。クラブに対することは、山小屋にいても何処にいても、もう一つの悩みはどうしようもありません。横浜に帰って治すことにします。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年8月29日(日)

今日は良いお天気です。妙高に登りたくなりました。只今9時45分です。これより妙高に登ってきます。散歩のつもりで登ります。

小屋の戻ってきました、15時45分です。5時間40分かかりました(出発は10時05分だったのです)。小屋に帰って紅茶を飲み、今「もなか」でお汁粉を作りました。お湯が少々ぬるくなっているのと、「もなか」のアンが2種類なので、少々面白い味です。でもおいしいですよ。ここで、お汁粉の作り方。まず、適当なお茶碗に「もなか」を入れます。そしてその上から熱湯をかけます(これは、熱湯でなくてはいけません)。そして、箸又はスプーンで「もなか」をつぶし、アンをお湯に溶かして、ハイ出来上がりです。遠くの方で雷が鳴っています。外は雨、夕立だと思います。妙高から帰ってくる途中、15時15分頃からポツポツと降り続いています。この雨で、バス道の水場は元に戻るかな?井戸も元に戻るといいけれど。山川園の野沢菜も大根も、この雨が丁度良いオシメリとなりますように。蒔いた時からみると、随分大きくなっています。今回初めて妙高山に登りました。今回で多分9回目になると思います、山小屋に来るのは。でも、1度としてこの近辺の山(火打、黒姫、妙高)に登ったことはありませんでした。でも今度はやっと一つ登りました。卒業するまでに後二つ登れるかどうか。今日も起き出したのが8時過ぎで、朝飯を食べ終わり、ポケットとしているうちに、天気は良いし、それでは妙高にでも登ろうかと思って登ったのです。妙高は3時間くらいで行けると聞いていたので、10時頃出発すれば充分間に合うだろうと考えたのです。でも、行ってきて思うに、随分近くにあるんですね、妙高は。朝10時5分に出発し林道をテクテク歩いて行きました。でも小屋でブラブラしていたお陰で、カナメに着くまでの林道はカッタルかったこと、参りました。でも1時間で行っているのだから、そんなにひどいペースでもなかったんですね。カナメより先、他の登山者を見かけ始める。よくよく考えたら今日は日曜日なんですよ。だから大谷ヒュッテを超えて頂上まで4、5 party 追い抜きました。頂上は人がいっぱい。ガッカリしました。頂上に登るまでに結構花が咲いていました。黄色の花や白い花が。黄色の花は夏合宿中に撮った写真の花なので、帰ったら名前を調べてみようと思います。それから、紫色の花が咲いていました。名前は判りませんが、かなりきれいな花でした。頂上からは火打、焼山、金山が見えましたが、黒姫の方向はガスっていて全く見えませんでした。火打も素敵な山だという感じがしました。絶対に登ってやると決心を固めました。頂上は人がいっぱい、俺もバカだなあと考えざるを得ませんでした。何で日曜なんぞに登る気になったのか、いい加減バカでした。従って残念ながら頂上で一人で誰かさんの名前を大声で呼ぼうと思っていたのに

出来ませんでした。でも小声で呼んだけれど残念でした。頂上で1時間近く過ごして下りかけたら、小屋近くのがスが晴れ、我等が山小屋が見えました。赤い三角屋根が日の光を反射してキラキラ輝いていました。まるでおとぎの国のお城のようでした。でも、良かった、妙高の頂上から小屋が見えるなんて、あまり本気にしていなかったのに、あんなによく見えるとは!それにしても、妙高ってのは良い山です。こんなに良い山がこんなに近くにあるのに、今まで知らなかったとは残念無念、もう少し早く知れば何度も登ったのに。チクショーメ。山小屋日記を見ても、無雪期の正確な?コースタイムが書いていないようなのでここに書いておきます。

YVW山小屋→1:00→カナメ→0:25→大谷ヒュッテ→0:15→天狗堂→0:35→鎖場→0:30→妙高山頂(三角点のある所まで)→0:30→天狗堂→0:05→大谷ヒュッテ→0:15→カナメ→0:50→YVW山小屋

尚、11月頃までカナメより大谷ヒュッテの間の林道工事の発破の作業時間は次の通りです。この時間は通行禁止ですので注意してください。

午前中 8:00より 9:00まで

午後 15:00より 16:00まで

今日はマジック(サインペン)で書きます。今日は疲れてお腹が空きました。従って作るのはメンドウでしたが、カレーを作りました。何と言ってもワングル流のカレーでないところが抜群です。コンビーフを入れたビーフカレーです。山ではコンビーフを入れたビーフカレーも又、ベーコンを入れたカレーも作らないけれど、ワングルでもたまには作ったら・・・と思います。仲仲うまいもんですよ!それから、キャベツときうりの塩もみ、旨かった。さっき書き忘れたけれど、妙高の頂上からは本当なら北アルプスが見えると思っていたのにガスのため、全然見えませんでした。今北アルプスに行っている高橋や榊原、大森、どうしているかな思い、ボンヤリとガスの彼方の北アルプスを眺めていました。こう並べてみると、僕も含めて5年生全員が山に行っているんだなあと思っておかしくなってきました。それから頂上でウズラみたいな鳥が3羽目の前1mと離れていないところにいました。慌ててカメラを出そうと思ってあせったら、飛んでいってしまい、写真撮れなかった。残念なことをしました。又、帰り道、第3リフトの近くの所でキジを見かけました。山小屋に戻ってから、入口の前の落葉松の林の中をピョンピョンとキジが飛んで行くではないですか。こんな近くで野生のキジを見たのは初めてです。

OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年8月30日(月)

外は風が強い。5時35分の山岳気象を聞く。台風が鹿児島に上陸したとは知らなかった。大体、台風が来たことさえ知らなかったのだから、北アに行っている高橋達が心配だ。大森達はもう下山したのか、する頃だろう。北ア、2週間も行っていれば、1度は台風に遭うのではないかと思っていたが、ヤッパリ台風に遭ったようだ。山小屋では今日も晴、風が強い、よく見ると雲の様子が幾分おかしな気がする。朝5時頃は陽が照っていたが、今はどんよりした空よりパラパラと雨が降って来始めた。今日帰ることにした。小屋の整理をしている。いつも感じるのだが、小屋から帰る日、小屋の整理をしていると、小屋の中がガラーンとしてしまって、僕が帰るのを悲しがっているようだ。今回は今日で9日目、まだ帰りたくない気がするが、水がないので仕方がない。井戸の水は底より20cm位の水位、うまく汲めば濁らないかも知れない。バス道の水場は枯れてしまってだめ、しかし今日、今降っている雨が今日、明日と降り続けば、井戸の水もバス道の水場も大丈夫になると思う。なお、布団は2階に上げておいた。2階に置いておいた方が better だと思う。

今回私メがやったこと

1. 道具棚の整理 (キレイになりました)
2. 溝の修理
3. お釜の台の製作

やろうと思って、メンドクさが増えて、やらなかったコト。

1. お釜の蓋の製作 (そのうちやろう)
2. 便所のローソク立て

山小屋を利用される皆様方、この小屋に泊まったならば、どんな小さな事でも良いから、この小屋が便利になるような事を一つで良いからやって下さい、お願いします。

(元2代目山小屋委員長)OB11期 Ken 桜井謙一

昭和46年9月9日(木)

8月下旬にサイクリングにでも、小屋へ来ようと思いつつ時期を逃してしまった。昨日(8日)半日かかって、横浜へ帰る荷物を整理して、チッキで送ってしまい、その後は只帰るだけというポカーンとした気持ちでテレビを見、パチンコをして時間をつぶしたが、何となくシャキッとしない。昼寝でもしようと思ってみると頭にフツと山小屋のことが浮かんできた。9月に入ってからは、何となく諦めていたものの、このダラダラと過ごした夏休みの締め括りに、ひとつ行ってみようかと思いつつ、時計を見たら 2:25 (PM)、たしか3:08分の妙高何号かが、笹ヶ峰行くバスに連絡をしていたはずと、電話で聞くと、やはり3:40分発の

バスがあった。それに昨日送った荷物から山行の道具を残してあったのを幸い、30分で用意し、列車に乗ってしまった。家人の止めるのも聞かずに出てきたが、やはり一人では内心心細い感じもしないではなかった。でも、バスの中ではヒョットとして山小屋に誰か来てるのでは?と、考えながら、すっかり装いを秋らしくした景色に心から満足してバスを降りた。予想通り誰も居ないのでホッとしたり、内心ガッカリした。それからラーメンを一つ作り、食べながら山小屋日記を読んだ。よくも、こんなに沢山短期間の間に書けたと思いつつ、始めから読みました。読む方も疲れます。今はもう 6:40 ですから、2時間も読んでた事になります。それでは俺もひとつ書こうかと考えましたが、何も考えないつもりで来た人間に、一体何が書けると思いますか。もうやめた。

1年15期 岩船芳人

あつという間に暗くなったので、毛布をたっぷり掛けて寝ることにしました。あんまり風の音がうるさいので(あんまり関係ないが)火付け用の週刊誌でも読み始めました。日頃はいやらしく、安っぽく、俗っぽいと感じる記事が・・・

1年15期 岩船芳人

昭和46年9月10日(金)

5:30 起床、朝飯はラーメン。

6:10 出発、天候は 雲少し多めではあるが安定しているように見える。勿論晴れである。後かたづけも終わったし、そろそろ出ることにする。

1年15期 岩船芳人

昭和46年9月24日(金)

燕温泉から入って妙高を越えて小屋に入る予定が、バスに乗る直前に、雨が降り出し、小屋に直行することになる。ところが、ところがだよ、杉野沢を過ぎた頃から、カラリと晴れて、まさに登山日より。誰かサンが八ヶ岳で賽銭盗もうとしたタタリ。(林さんだジョー) 仙人池まで遠足。夜、満天の星空の下、酒を酌み交わす。しかし、4人とも急に空しい思いにかられて、小屋に入る。彼女が居ないということが、こんなにも寂しいことだとは、ア～ア。でも、小屋、きれいになったネ。しかし、山日記を見ると、知らない名前ばかりになってきて、時代が変わっていくんだなあという気持ち。ほろ酔いでいい気分、眠くなってきたので、このへんで。

追: 林さん、伊藤さんは、エゲツない雑誌を貪るよ

うに読んで。男も、いい年して恋人の一人もいないと、ろくな事を考えないようだ。俺も気を付けなければ。

9/24 4年12期 北村秀明

昭和46年10月15日(金)

13日の夜行で杉野沢の岡田さん宅に、稲刈りの手伝い。総勢11名の大部隊。(竹村、村松、吉里、吉田、川端、加納、田中、左藤、谷島、青木)。尤もこの中にはパーワン挫折の落武者あり。昨日は終日雨が降り、午前中は休んで、午後はベチャベチャピタピタの田圃で稲刈り。13日に先発隊で来ていた高木サン、鶴飼サン他、生物科6名と合わせて、人海戦術。みな雨具を用意してきてないので、あり合わせの物を着て、冷たい雨の中。漸く終わって風呂に入ってほっとしたら湯が出ない。なんと「湯」制限。夕食の時出た酒も、全然熱くなかった。冷え冷えとした1日であった。夕食後、村松さん、高木サンがパトロンで、有志の酒宴。高木サン曰く「イイフンイキー」。その際、加納が酒に強いことを発見した。本日はイイ天気。久しぶりの青空。雲は出ていたが、空気は澄み、ほんとの秋晴れという感じだ。今日も仕事かと思っていると、岡田さんから、あまり仕事がないので、帰ってくれとのこと。これに竹村氏、頗る不愉快、不満、立腹。そこで竹村さん、川端、加納、田中、左藤の5名、山小屋へマキ運びを兼ねてやってきた。午後は笹ヶ峰へハイキング。ここで、青木、谷島と生物科6名と合流した。生物科は商売柄変な植物や葉っぱをかき集めて来た。また、左藤はアケビを集めるのに熱中。黒沢までブラブラ歩いていったが、妙高や外輪山の紅葉(実際には紅葉は少なく、殆ど黄色や茶色であった。カエデまで黄色になっているのには、ナンカヘンダナーと言いたくなる)が、とても美しい。それに白樺や空の色が一段と映えている。道を歩いていると黄色い葉がユラリ、ユラリ落ちてくるのを見ると、生命の輪廻を考えずにはいられない。今、非常に妙高山に登りたいのですが、やっと暇が出来たのに、今度は急に来たもんで、食糧が無く、昼食に持っていけるようなものが無いのだ。おまけに、今晚沢山炊いたご飯が、これ以上まずく出来ないほどひどい。これでは、オニギリにしても喰う気はしない。どうしたら良いだろう。また挫折するのはイヤだもんね。

1年15期 田中武憲

夜、7時頃外へ出たら、勿論真っ暗で、満点星の世界だ。ペガサス、アンドロメダ、ペルセウス、カシオペア等、秋の星座が東から登ってくる。薄明るい夜空の星を見慣れた目には、この光景は驚異とさえ思える。

寒い寒いと温度を計ると4℃。深夜には零度を割るだろう。やっと秋かと思ってやってくると、ここでは冬がもうすぐだ。妙高も雪が降ったと言っていたし。

1年15期 田中武憲

寝る気がしないのでも少し書きます。このノートを早く終わらせる為にも。今聞こえるのは、寝息ともイビキともつかぬ竹村さんから発せられる音のみ。川端、加納、左藤は静かに寝ている。竹村さんは元々よく寝る人ではあるが、今日は黒沢までサンダルで行き、昨日の稲刈りの時の足腰の痛みも加わって、いちはやくおやすみなさい。今僕はヒネクレているので、(いつもそうなのかも知れないが)何見ても、何しても腹が立つ。前書いたこともバカバカしく腹立たしいし、いろんな人が書いたこのノートを読んでも胸くそ悪くなる。きれいごと並べやがって、イイカッコしようなんて、偽善的且つ偽悪的であり、全くいやらしい一言に尽きる。みんなクタバッチマエー。

【すさんだ男】より

今、上に書いたことも腹立たしいが、消すのもめんどろ。あすからどうしようかしら。要するに僕が思うに、このノートは書きたい奴が自分勝手なことを、それこそ自分勝手に書くノートなのだ。もう一度言いたい、腹立たしい、と。

俺が小屋に入っている間に是非ともこの日記を終わらせたい。しかも俺のが最後に!!そうすると5/1より始めたNo. 5は私で始まり私で終わるのです。そこで何だか知らないが変な優越感みたいなものが、心の中にモクモクとなるのを感じるのです。その為には後4頁を何とかして埋めなければならぬのですが、このような日記の使用法が、そもそもたったの4ヶ月で日記を終わらせるという浪費の主たる原因かもしれない。

3年13期 竹村昇

今日14日(と言っても、もう10分で15日になるのだが)、連日の雨で「岡田さん」の稲刈りの仕事が無いので、小屋に上ってきた。「究」さんに頼んで薪を貰い、トヨエースに載けて、ついでに我等も乗り、薪を運んだ。薪は材木のかすで、良く燃えそうである。お茶の後、京大ヒュッテまで乗せて貰う。途中、木の葉が色づき、夏冬とは違った趣があった。黄色や赤の木々の間に、仙人池の空を写した青い水面と、その上に、小さなガスの塊を見たときに、やはり来て良かったとしみじみと感じた。黒姫のおっぱいが崩れてゆくと笹ヶ峰である。京大ヒュッテで写真を撮って、「究さん」と「高木」は帰り、我等は、今はもう枯れた芝で昼寝、しばらくして谷島達がやって来たので、昼飯を

貰うために後を付いていく。去年は妙高に登ったので、笹ヶ峰は初めてだった。枯れた芝は暖かく、良く滑り、夏とは違い、また格別、なにぶん私はサンダルだったので、高谷池まで行こうと思いましたが、黒沢出合しか行けなかった、黒沢は何度行っても良いところですね。いつも冷たい水が豊富に流れていて、緑色のコケが付いていて・・・2年の時チョンボで火打まで連れて行ってもらった時、笹ヶ峰から丁度2本目くらいで、暑く、バテた時、黒沢で休ませて貰い、顔を洗って、水をガバガバ飲んだときの、あの気持ちよさが、今でも心に残っているのです。あそこも、もう数度行っているかな。1年は元気がいいので牧場から小屋に歩いて帰りましたが年を取った私は、池の峰までバスで、そこから武庫川に寄りたいうーなんて思っているながら小屋に帰って来ました。小屋に帰り、さて晩飯と言うときになり何を食べようか考えてしまう。何しろ急だったモノで、食糧は小屋に残っているモノを当てにしてきたモノの、大したモノはなく、結局ラーメンライス。明日の晩は一体何を食べようか、何もないって寂しい、切ない気持ちです。おまけに今日、岡田さんを追い出され、腹立たしさが加わり、こんな惨めになったのは、初めてです。いつも小屋に来ると心が安らぎ何となく楽しくなり、浮かれ出すのが、私の常であったのに、こんな気持ちで小屋に来るとどうしても湿っぽくなって。しかし岡田さん宅を追い出されたから腹を立てているのではない事を参考までに書いておきます。妙高に来る4日前頃電話で、どうしても10人集めてくれと言われて、頭を下げ下げ、pwを二つもつぶして貰い、やっとの事で人数をそろえて来たのに、雨続きで仕事がないと言われたのでは、PWに行く予定だった奴等に申し訳なくて、一言岡田さんから、小屋に来る1年生に、何か言って貰いたかったのです。本当、1年生に申し訳なくて、申し訳なくて、ついつい沈みがちになり、ムツとしているのです。1年が割り切って、思う存分、小屋の生活を楽しんでくれさえすれば、私も満足なのですが、それに1年生が一言も私に「約束が違うじゃあないか！」なんて言わないから、よけいに悲しくなってます。ともかく、明日1日小屋にいて、冬支度を済ませようと思う。そうすれば11月にわざわざ再び来る必要も無くなり、使用料金を取れるからネ。今日はストーブをくっつけ、石炭を燃やしたモノの、旨く着かず、真冬になって役に立つかどうか心配です。明るくなったら昨年まで使った薪ストーブをまた、小屋の中に入れておこうと思っています。

寝たのが7時頃だったのか、左藤も起き出して来てストーブを着けようと悪戦苦闘。いつになったら火がつくのかナー。今夜は結局火がつかないのではのではないかと考えています。温度計は0℃近くまで下がり、冬の訪れをひしひしと感じます。そういう左藤はもう

マッチを一箱使ってしまって、未だ火はつかず、俺がやれば早いと思うけど、そこはほれ、先輩の心の温かさ、ジッと布団の中で見守っています。しかし、早く点けて欲しい私、しかし寂しいなー。男ばかりで悪乗りして騒ぐのはもういやだ。女の子とシンミリと話でもしてみたい。しかし、女の子と言えば、私の知っているのは、ワングルの娘しか居ないし、世の中にいろいろカップルが、それこそ星の数ほど居る（これは、夏に山下公園、港の見える丘公園を視察したので事実です。）のに、私と一緒に歩く女の子は一人も居ない。こんなに優秀でカッコイイ男をほっぽっておくなんて、異常だよ。それとも、余りにも素晴らしくて取っつきにくいのかな。

くだらないことを書きながら、遂に最後の頁になりました。そうそう、桜井さんが、小屋に電気を入れるのを反対して、「反対同盟」を作ろうなんて言ってるけど、先日の山小屋委員会で決まったことですが、やはり、電気を入れようということになりました。電気という近代文明の象徴みたいで毛嫌いしているようですが、人間が明かりを求めるのは仕方ないと思います。一応、電気は、料理場、乾燥室に小屋の真ん中に一つ、を予定しているのだけれど、お金次第では後何年過ぎたらひけるのか判りません。なにしろ今の山小屋は赤字と必至になって闘っているのですから。5万位だったら、何とかなるのだけれど。もう紙も無くなってきたが、このノートが私のワングル活動の主たる部分を集約しているのですから、感慨もひとしおです。ペンをそっと置きます。

3年13期 竹村昇

日記を見ていたら、旧ストーブ置き場にあるというジャガイモ、頂きます。夕顔はたべられません。明日はジャガイモのみの、カレーを作れるぞう。それから桜井さんが2代目の山小屋委員長だとすると、俺は4代目ですね。初めて知ったのです。（考えると数えた事、なかったものな）